



茨城県

茨城県景気ウォッチャー調査

(平成24年3月調査分)

《景気の現状判断DI》

	平成23年12月	平成24年3月	前回調査比
茨城県	45.3	48.2	+2.9
県北地域	44.5	49.1	+4.6
県央地域	46.8	50.0	+3.2
鹿行地域	43.4	49.1	+5.7
県南地域	45.9	48.2	+2.3
県西地域	46.2	44.9	△1.3

《景気の先行き判断DI》

	平成23年12月	平成24年3月	前回調査比
茨城県	46.1	49.1	+3.0
県北地域	43.2	47.7	+4.5
県央地域	46.7	49.5	+2.8
鹿行地域	46.1	52.2	+6.1
県南地域	44.5	47.3	+2.8
県西地域	50.5	48.6	△1.9

平成24年4月

茨城県企画部統計課

目 次

I	調査の概要	1
II	調査結果の概要	3
1	全県の動向	3
	(1) 景気の現状判断D I	3
	(2) 景気の先行き判断D I	4
2	地域別の動向	5
	(1) 景気の現状判断D I	5
	(2) 景気の先行き判断D I	8
3	回答率	10
III	景気の判断コメント	11
1	景気の現状判断コメント	11
2	景気の先行き判断コメント	21
3	その他の意見	31

問い合わせ先

統計課庶務・企画分析グループ TEL:029-301-2642

ホームページアドレス

<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/bukka/watch/index.html>

I 調査の概要

1 調査の目的

県内の事業所等において経済の第一線で働いている人々から、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気動向判断等の基礎資料とする。

2 調査の範囲

(1)対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市及び郡は以下のとおりである。 ※平成24年3月1日現在

地域	市 及 び 郡
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、那珂郡、久慈郡
県央地域	水戸市、笠間市、小美玉市、東茨城郡
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
県南地域	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、稲敷郡、北相馬郡
県西地域	古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、結城郡、猿島郡

(2)調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに60名、計300名を調査客体とする。

【地域別・業種別調査客体数】

業 種 名	具 体 例	県北地域	県央地域	鹿行地域	県南地域	県西地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等	37	39	39	37	36	188
企業関連	製造業（食料品、一般機械器具等）、建設業、金融業	19	17	16	19	20	91
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等	4	4	5	4	4	21

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1) のコメント（理由）
- (3) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (4) (3) のコメント（理由）
- (5) その他景気に関する意見（自由回答）

4 調査月及び調査期間

調査月は3月、6月、9月及び12月の年4回である。平成24年3月調査の調査期間は、平成24年3月1日から平成24年3月31日である。

5 利用上の注意

- (1) DI (Diffusion Index) は景気の方向性 (景気が上向きか下向きか) をみるものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とならない場合がある。

※DI(Diffusion Index)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比 (%) に乗じて、景気の方向性をみるための指標 (DI) を算出している。

回答区分	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

2 具体例

回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は

良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、DI値は、

$$(1点 \times 15.0\%) + (0.75点 \times 27.0\%) + (0.5点 \times 25.0\%) + (0.25点 \times 11.0\%) + (0点 \times 22.0\%) = 50.5 \text{ となる。}$$

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は、 $(0.5点 \times 100\%) = 50$ となることから、50を上回っているときは、景気は上昇局面にあり、また50を下回っているときは、景気は下降局面にあるといえる。

Ⅱ 調査結果の概要

1 全県の動向

(1) 景気の現状判断DI

景気の現状判断DIは48.2となった。平成23年12月の調査（以下、「前回調査」という。）より2.9ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を18期連続で下回った。

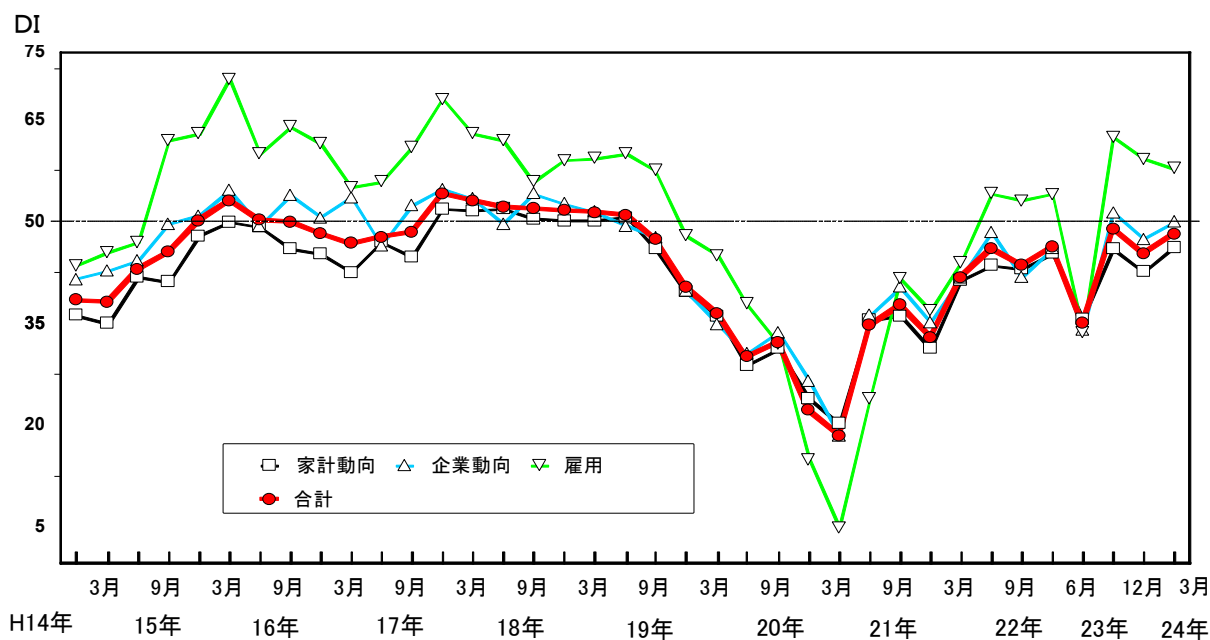
表1-1 景気の現状判断DI

分野	調査年月	平成22年 12月	平成23年 6月	平成23年 9月	平成23年 12月	平成24年 3月
合 計		46.3	35.1	48.9	45.3	48.2
家計動向関連		45.4	35.7	46.0	42.7	46.2
小売関連		49.0	38.2	42.9	39.1	48.5
飲食関連		40.3	48.4	42.1	55.0	38.2
サービス関連		42.6	31.5	50.3	43.7	46.5
住宅関連		50.0	30.6	44.4	40.6	41.7
企業動向関連		46.1	34.1	51.3	47.4	50.0
農林水産業		53.6	15.6	40.6	43.8	40.6
製造業		42.8	35.7	50.6	44.8	45.3
非製造業		49.2	36.7	54.7	51.4	58.1
雇用関連		54.0	33.7	62.5	59.2	57.9

表1-2 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成22年12月	2.8%	19.2%	47.9%	20.6%	9.4%
平成23年6月	2.9%	18.2%	22.5%	29.1%	27.3%
平成23年9月	2.1%	29.3%	38.6%	22.1%	7.9%
平成23年12月	2.6%	17.6%	46.2%	26.0%	7.7%
平成24年3月	1.5%	21.9%	53.2%	14.9%	8.6%

図1-1 景気の現状判断DIの推移



(2)景気の先行き判断DI

3 か月先の景気の先行き判断DIは 49.1 となった。前回調査より 3.0 ポイント低下し、横ばいを表す 50 を 17 期連続で下回った。

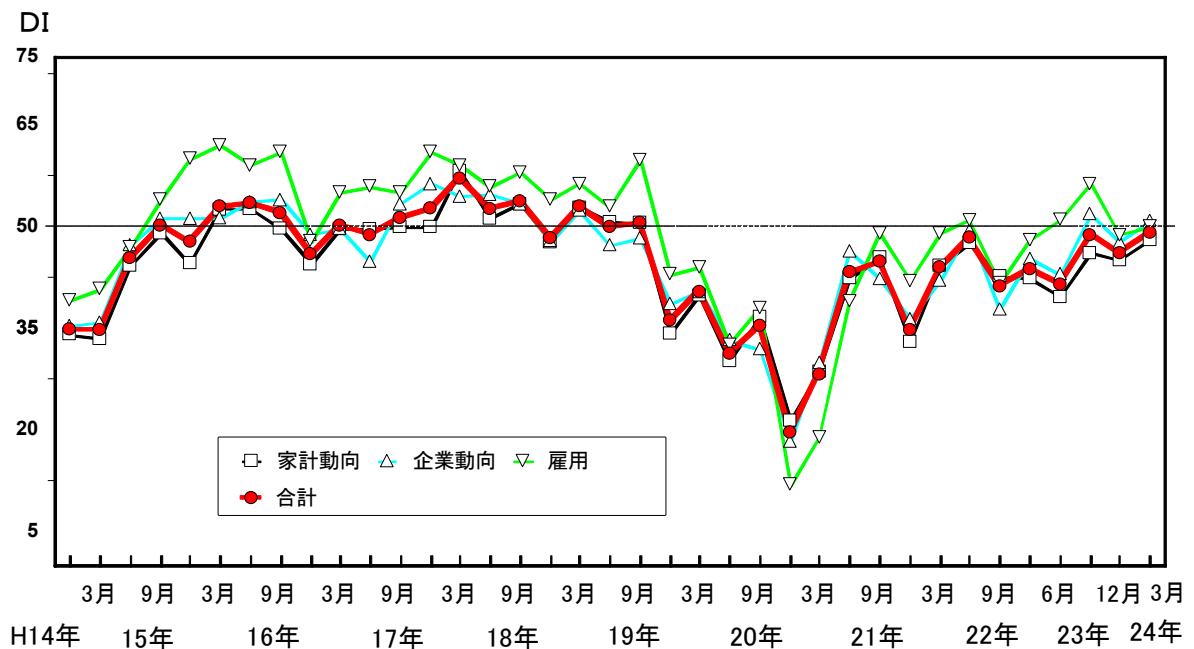
表1-3 景気の先行き判断DI

分野	調査月	平成22年	平成23年	平成23年	平成23年	平成24年
		12月	6月	9月	12月	3月
合計		43.7	41.5	48.7	46.1	49.1
家計動向関連		42.4	39.6	46.2	45.0	48.0
小売関連		43.8	38.6	44.3	45.3	48.5
飲食関連		41.7	51.6	44.7	48.3	51.5
サービス関連		40.4	37.3	49.3	44.6	46.5
住宅関連		50.0	44.4	38.9	40.6	50.0
企業動向関連		45.2	43.0	51.9	47.7	50.9
農林水産業		50.0	31.3	53.1	50.0	43.8
製造業		43.9	43.5	53.1	45.9	49.4
非製造業		46.0	45.3	50.0	49.3	54.4
雇用関連		48.0	51.1	56.3	48.7	50.0

表1-4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成22年12月	0.3%	13.3%	57.0%	19.6%	9.8%
平成23年6月	2.9%	19.3%	35.3%	26.2%	16.4%
平成23年9月	1.8%	23.9%	47.5%	20.7%	6.1%
平成23年12月	1.1%	15.1%	58.5%	18.0%	7.4%
平成24年3月	0.7%	23.4%	52.4%	18.2%	5.2%

図1-2 景気の先行き判断DIの推移



2 地域別の動向

(1)景気の現状判断DI

① 県北地域

景気の現状判断DIは49.1となった。前回調査より4.6ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を2期連続で下回った。

表2-1 景気の現状判断DI

分野	調査月	平成22年	平成23年	平成23年	平成23年	平成24年
		12月	6月	9月	12月	3月
合計		50.4	31.8	51.3	44.5	49.1
家計動向関連		48.6	30.0	47.3	41.4	46.3
企業動向関連		52.8	38.3	60.9	48.5	52.9
雇用関連		55.0	25.0	50.0	58.3	58.3

表2-2 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成22年12月	5.2%	25.9%	43.1%	17.2%	8.6%
平成23年6月	3.6%	18.2%	9.1%	40.0%	29.1%
平成23年9月	3.5%	29.8%	40.4%	21.1%	5.3%
平成23年12月	1.8%	21.8%	43.6%	18.2%	14.5%
平成24年3月	1.9%	24.1%	53.7%	9.3%	11.1%

② 県央地域

景気の現状判断DIは50.0となった。前回調査より3.2ポイント上昇し、横ばいを表す50を1期下回った後、横ばいとなった。

表2-3 景気の現状判断DI

分野	調査月	平成22年	平成23年	平成23年	平成23年	平成24年
		12月	6月	9月	12月	3月
合計		44.2	35.9	50.0	46.8	50.0
家計動向関連		43.6	37.1	47.1	41.2	48.3
企業動向関連		42.2	31.3	53.1	54.4	52.9
雇用関連		55.0	43.8	60.0	66.7	50.0

表2-4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成22年12月	1.7%	18.3%	45.0%	25.0%	10.0%
平成23年6月	3.6%	21.8%	20.0%	23.6%	30.9%
平成23年9月	3.6%	29.1%	36.4%	25.5%	5.5%
平成23年12月	1.9%	24.1%	38.9%	29.6%	5.6%
平成24年3月	4.0%	16.0%	60.0%	16.0%	4.0%

③ 鹿行地域

景気の現状判断DIは49.1となった。前回調査より5.7ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を17期連続で下回った。

表2-5 景気の現状判断DI

分野	調査月	平成22年	平成23年	平成23年	平成23年	平成24年
		12月	6月	9月	12月	3月
合計		46.4	38.6	44.9	43.4	49.1
家計動向関連		41.9	41.9	39.9	41.7	50.0
企業動向関連		57.1	35.3	48.5	45.3	43.3
雇用関連		50.0	25.0	70.0	50.0	60.0

表2-6 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成22年12月	1.8%	19.6%	55.4%	8.9%	14.3%
平成23年6月	3.6%	20.0%	25.5%	29.1%	21.8%
平成23年9月	0.0%	30.5%	32.2%	23.7%	13.6%
平成23年12月	3.5%	12.3%	49.1%	24.6%	10.5%
平成24年3月	0.0%	26.8%	48.2%	19.6%	5.4%

④ 県南地域

景気の現状判断DIは48.2となった。前回調査より2.3ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を2期連続で下回った。

表2-7 景気の現状判断DI

分野	調査月	平成22年	平成23年	平成23年	平成23年	平成24年
		12月	6月	9月	12月	3月
合計		48.2	34.5	51.4	45.9	48.2
家計動向関連		49.2	34.8	47.1	41.7	46.2
企業動向関連		44.1	35.3	55.4	52.8	51.4
雇用関連		55.0	30.0	70.0	50.0	50.0

表2-8 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成22年12月	3.6%	18.2%	49.1%	25.5%	3.6%
平成23年6月	3.6%	10.9%	30.9%	29.1%	25.5%
平成23年9月	1.9%	28.3%	47.2%	18.9%	3.8%
平成23年12月	3.6%	14.5%	49.1%	27.3%	5.5%
平成24年3月	1.8%	18.2%	56.4%	18.2%	5.5%

⑤ 県西地域

景気の現状判断DIは44.9となった。前回調査より1.3ポイント低下し、横ばいを表す50を18期連続で下回った。

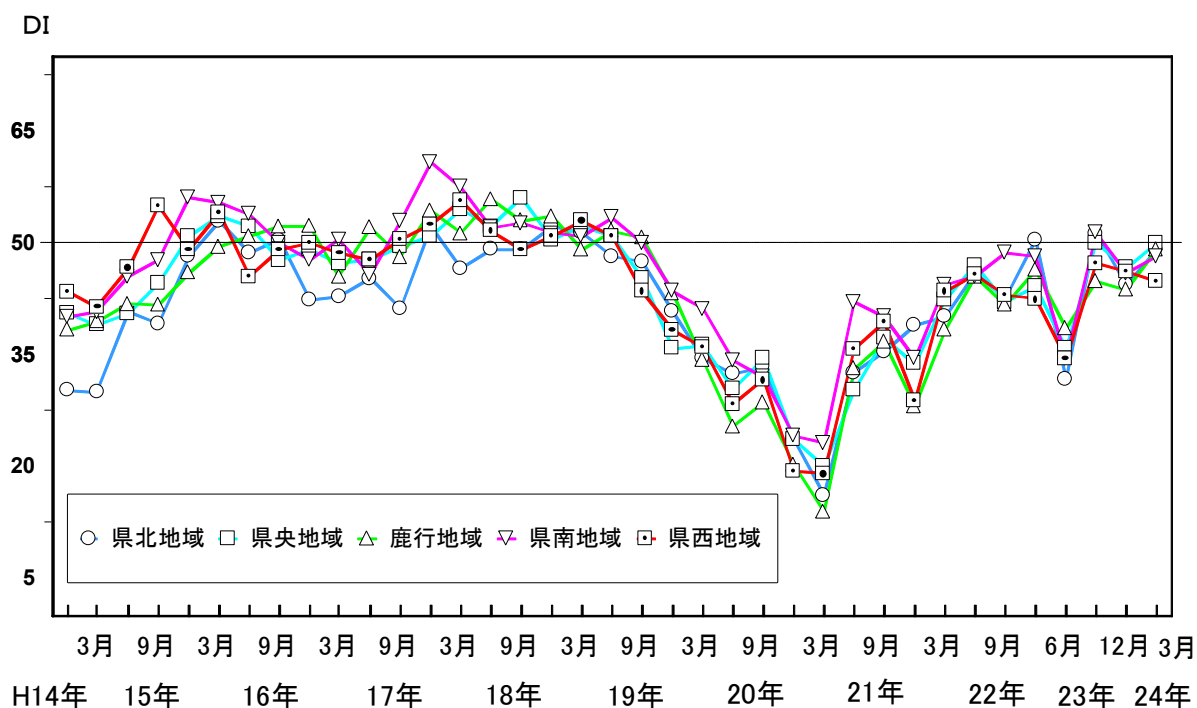
表2-9 景気の現状判断DI

分野	調査月	平成22年 12月	平成23年 6月	平成23年 9月	平成23年 12月	平成24年 3月
合計		42.5	34.5	47.3	46.2	44.9
家計動向関連		44.1	34.4	48.5	48.3	39.8
企業動向関連		36.1	31.9	41.7	36.8	48.6
雇用関連		55.0	45.0	60.0	75.0	68.8

表2-10 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成22年12月	1.8%	14.0%	47.4%	26.3%	10.5%
平成23年6月	0.0%	20.0%	27.3%	23.6%	29.1%
平成23年9月	1.8%	28.6%	37.5%	21.4%	10.7%
平成23年12月	1.9%	15.4%	50.0%	30.8%	1.9%
平成24年3月	0.0%	24.1%	48.1%	11.1%	16.7%

図2-1 地域別現状判断DIの推移



(2)景気の先行き判断DI

① 県北地域

3か月先の景気の先行き判断DIは47.7となった。前回調査より4.5ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を2期連続で下回った。

表2-11 景気の先行き判断DI

分野	調査月	平成22年	平成23年	平成23年	平成23年	平成24年
		12月	6月	9月	12月	3月
合計		40.9	39.5	52.2	43.2	47.7
家計動向関連		37.9	35.7	52.0	41.4	43.4
企業動向関連		44.4	41.7	54.7	45.6	54.4
雇用関連		50.0	60.0	43.8	50.0	58.3

表2-12 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成22年12月	0.0%	6.9%	60.3%	22.4%	10.3%
平成23年6月	3.6%	16.4%	34.5%	25.5%	20.0%
平成23年9月	0.0%	31.6%	49.1%	15.8%	3.5%
平成23年12月	0.0%	16.4%	52.7%	18.2%	12.7%
平成24年3月	1.9%	18.5%	55.6%	16.7%	7.4%

② 県央地域

3か月先の景気の先行き判断DIは49.5となった。前回調査より2.8ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を18期連続で下回った。

表2-13 景気の先行き判断DI

分野	調査月	平成22年	平成23年	平成23年	平成23年	平成24年
		12月	6月	9月	12月	3月
合計		45.4	37.3	48.2	46.7	49.5
家計動向関連		44.9	35.7	44.9	43.9	49.1
企業動向関連		46.9	40.6	53.1	51.5	51.5
雇用関連		45.0	37.5	55.0	50.0	50.0

表2-14 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成22年12月	0.0%	15.0%	60.0%	16.7%	8.3%
平成23年6月	3.6%	18.2%	23.6%	32.7%	21.8%
平成23年9月	1.8%	25.5%	45.5%	18.2%	9.1%
平成23年12月	1.9%	18.9%	49.1%	24.5%	5.7%
平成24年3月	2.0%	24.0%	48.0%	22.0%	4.0%

③ 鹿行地域

3か月先の景気の先行き判断DIは52.2となった。前回調査より6.1ポイント上昇し、横ばいを表す50を17期ぶりに上回った。

表2-15 景気の先行き判断DI

分野	調査月	平成22年	平成23年	平成23年	平成23年	平成24年
		12月	6月	9月	12月	3月
合計		41.1	41.8	44.5	46.1	52.2
	家計動向関連	37.2	40.4	37.8	44.4	52.8
	企業動向関連	46.4	45.6	54.4	50.0	53.3
	雇用関連	55.0	37.5	60.0	45.0	45.0

表2-16 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成22年12月	0.0%	14.3%	48.2%	25.0%	12.5%
平成23年6月	3.6%	18.2%	38.2%	21.8%	18.2%
平成23年9月	1.7%	18.6%	44.1%	27.1%	8.5%
平成23年12月	1.8%	12.3%	64.9%	10.5%	10.5%
平成24年3月	0.0%	32.1%	50.0%	12.5%	5.4%

④ 県南地域

3か月先の景気の先行き判断DIは47.3となった。前回調査より2.8ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を17期連続で下回った。

表2-17 景気の先行き判断DI

分野	調査月	平成22年	平成23年	平成23年	平成23年	平成24年
		12月	6月	9月	12月	3月
合計		47.7	46.8	48.6	44.5	47.3
	家計動向関連	50.0	47.7	45.6	43.9	51.5
	企業動向関連	44.1	45.6	50.0	47.2	38.9
	雇用関連	45.0	45.0	65.0	37.5	50.0

表2-18 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成22年12月	1.8%	16.4%	60.0%	14.5%	7.3%
平成23年6月	1.8%	21.8%	47.3%	20.0%	9.1%
平成23年9月	3.8%	17.0%	54.7%	18.9%	5.7%
平成23年12月	0.0%	9.1%	65.5%	20.0%	5.5%
平成24年3月	0.0%	18.2%	60.0%	14.5%	7.3%

⑤ 県西地域

3か月先の景気の先行き判断DIは48.6となった。前回調査より1.9ポイント低下し、横ばいを表す50を3期ぶりに下回った。

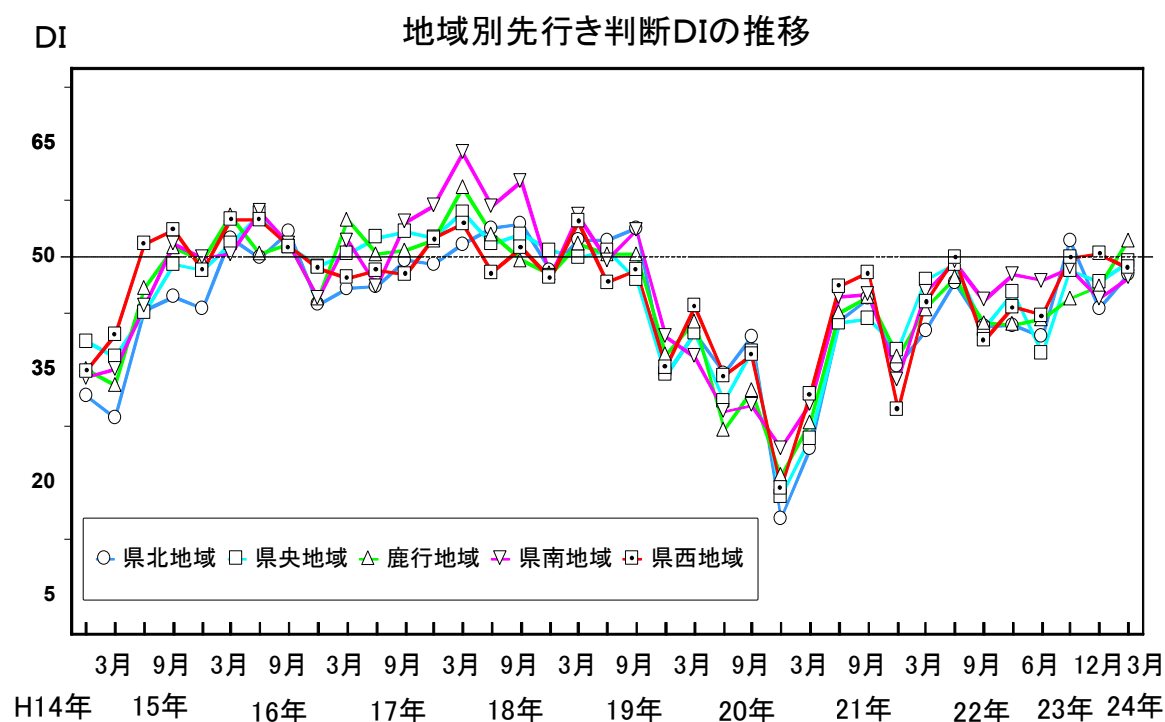
表2-19 景気の先行き判断DI

分野	調査月	平成22年	平成23年	平成23年	平成23年	平成24年
		12月	6月	9月	12月	3月
合計		43.4	42.3	50.0	50.5	48.6
	家計動向関連	42.6	38.3	50.0	52.6	43.8
	企業動向関連	44.4	41.7	48.6	44.7	56.9
	雇用関連	45.0	70.0	55.0	62.5	50.0

表2-20 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成22年12月	0.0%	14.0%	56.1%	19.3%	10.5%
平成23年6月	1.8%	21.8%	32.7%	30.9%	12.7%
平成23年9月	1.8%	26.8%	44.6%	23.2%	3.6%
平成23年12月	1.9%	19.2%	59.6%	17.3%	1.9%
平成24年3月	0.0%	24.1%	48.1%	25.9%	1.9%

図2-2 地域別先行き判断DIの推移



3 回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	300 人	269 人	89.7%
県北地域	60 人	54 人	90.0%
県央地域	60 人	50 人	83.3%
鹿行地域	60 人	56 人	93.3%
県南地域	60 人	55 人	91.7%
県西地域	60 人	54 人	90.0%

Ⅲ 景気の判断コメント — 1 景気の現状判断コメント

(1) 県北地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良	企業	金物・荒物・建築資材	売上が増加している。
やや良くなっている	家計	スーパー	惣菜の売れゆきが良い。お客さんの方から「何かないの?」「いま何をつくっているの?」と質問があり、購買意欲が見られた。
		小売業(工具)	注文件数が多くなっている。打合わせ件数が増えている。
		自動車販売店	3月は、例年のように新卒者の需要が増えるため他の月よりは売上げが伸びるが、今年は、昨年の年末にエコカー減税の補助金について発表があったので、追い風となり、新車の販売が伸びた。
		小売業(時計)	お客さんの話の様子から、やや良くなっていると判断した。又、単価も上がってきている。
		スナック	私の経営する飲食店でのお客様の来店回数が増えている。
		タクシー運転手	3か月の売上げ平均より、最近の売上げが約2000円程良くなった。
		ゴルフ場	①経営努力として、震災復興の為、元気・活力の支援というメッセージを大切にしている。②震災後1年を迎え、健康を大切にするお客様の姿が見られるようになった。③実績として(来場者は12月時点より)1~3月の来場者は対前年比122ポイント。④計画比としての来場者比は87レベルに挽回中である。
		レジャー施設	客単価が少しずつ上向いている。また、イベントを開催すると、以前より集客がある。
いる	企業	製造業(一般機械器具)	大口の受注案件契約成立に向けて活動しており、良好な結果が得られる見込みである。
		建設業	仕事量は多く多忙である。復旧需要に加え新規物件も動きがあり、稼働率は高い状態が続いているので、やや良くなってきたと思う。
		不動産業	販売会イベント等での集客数が多くなってきた。
	雇用	サービス業(広告業)	それ以前の時期よりは良くなっている感じだが、例年と比べれば決して良くない。
		学校就業関係者	震災の影響で止まっていた仕事が再開されているみたいで、そのため求人の数も増えてきている。
変わらない	家計	商店街代表者	震災による消費マインドの低下と併せて、少子高齢化及び、将来に対する社会保障への不安等、全体に暗い世相となっている。
		商店街代表者	年度末を迎えて売上げが上がって来なければならない時期なのに、3か月前と変わらない数字ということは、全体的に年間ベースでいうと悪くなっているということかもしれない。
		コンビニエンスストア	増税等の報道が多く、消費が活発化する傾向に無い。基本的には衝動買いが少なく、必要な物しか買われないお客様が多く、変化はない。
		コンビニエンスストア	相変わらず、惣菜を中心とした食品は堅調となっております。しかし、それも高止まりしている感も出てきた。
		衣料品販売店	年が変わっても、依然として消費は低迷しています。
		小売業(酒類)	来店客数、売上げ共に悪い状況にて推移している。
		観光型ホテル	宿泊、日帰り宴会予約は、例年と同じ水準で予約が入っており、現在の景気は3か月前と比較してほぼ変わらないと感じる。
		旅行代理店	利用単価が上がらない。
		タクシー運転手	良くもなっていないが悪くもなっていない。
		タクシー運転手	震災の影響も大分収まってきたが、100%とまではいかない。小康状態といえる。
		ドライブイン	客単価は昨年と比べやや落ちる。人は出ているが、目立った動きがない。
		ゴルフ場	予約の伸び率で前々年度(前年度は震災のため参考にならず)より少々良い。
		ボウリング場	お客様の会話、会社の売上などから、変わらないと判断した。
		ゴルフ場	今年に入り震災の影響も薄れ、客足が徐々に戻ってきたが、お客様の単価に対する考え方がシビアになってきている。料金だけではなく、サービスの質もゴルフ場を選択する要因となっている。安くてよいものを探す努力は、景気がよくなることに対する自衛と思われる。
		理・美容店	卒業、入学、異動等の時期的なことによる上昇は見込めるが、例年のことであり変わらない。
住宅販売会社	原発の影響が続いている。		
企業	企業	水産業界関係者	震災後、建築業界等に動きがありますが、水産業界は、風評被害や直接の実害等で、魚価は半額また出漁ができず、景気に大きなマイナス要因となっています。
		製造業(電気機械器具)	特急作業はあったものの、この3か月は作業量が横這いだった。
		製造業(電気機械器具)	3か月前とくらべ、受注数が横ばいの為、変動なし。
		製造業(電気機械器具)	震災後1年経ったが、未だに景気回復の話題が出てこない。復興への気持ちは強いが、目に見えてこない。

変 わ ら な い	企業	製造業（電気機械器具）	近くの工業団地に、材木関係の会社が多く立地してきてます。
		製造業（電気機械器具）	昨年未頃より、同じ様に生産員数及び売上げが推移している。
		運輸業	仕事の内容があまり変わらない。
		情報通信業（情報サービス業）	3か月前と比較しても、商談は少ない状態が続いている。
		金融業	下請企業への発注が回復しておらず売上高が低迷、今後の見通しも不透明な為、融資条件変更の申し込みや元金据え置き等の運転資金の相談が増加している。個人の方は、大手企業のリストラ等もあり、借入の減少を図るべく退職金での住宅ローン完済が増えている。また、個人事業者等も条件変更の申出が増加している。
雇用	公共職業安定所	求職者数及び雇用保険受給者数は少しずつ減少していたが、ここに来てやや増加した。求人数も増加傾向が続いていたが、ここ数か月は同水準で推移している。引き続き、震災復興求人と思われる建設関係の求人は多い状況が継続しており、且つ、ここ数か月はサービス関係の求人も多くなっている。震災直後は多く申請が出された雇用調整助成金も、申請件数を見ると落ち着いてきた感がある。	
	求人開拓員	現在受注残の生産をこなしているが、生産量は増加していない。	
や や 悪 く な っ て い る	家計	スーパー	売上は増加しているが、1点単価は低下(安価)傾向で価格政策の結果と考えている。競合他社も同様に価格政策傾向。以前より消費者の価格指向が強い。
		観光型ホテル	県北地区は原発による風評被害の報道の影響で3か月前はそれなりの賑わいを見せてましたが、3月にもなるとその賑わいも一段落するかと思われる。
		タクシー運転手	一部の企業でリストラが実施された。
	企業	林業関係者	12月頃に比べると、材価が安くなっているのが気にかかる。全体として材は出て来ているので、それほど悪くなるとは考えられない。
		製造業（輸送用機械器具）	各メーカー共に震災影響に伴う減産分を第3四半期以降補おうと下期生産計画を強気に上方修正したが、タイ洪水の影響に加え中国・欧州・北米の販売伸び悩みに伴い足元減産基調となっている。
悪 く な っ て い る	家計	スーパー	客数が上がっていない。震災後、お客様の買い方が変化しているように感じる。
		小売業（水産物）	生魚離れが強く考えられる。産地をお客様が細かくチェックしている。
		レストラン	全体的に商売をしている人達の話から、悪くなっていると判断しました。実際当店も売上げは下がっています。
		居酒屋	売上が望めない。
		クリーニング店	客数、客単価ともに下がっている。

(2) 県央地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	レストラン	3か月前よりも来客数が増えています。家族のお祝いでのご利用が増加しています。
	企業	製造業(精密機械器具)	3か月前の売上に対し、20%アップの売上となった。その後現在に至るまで好調な売上が継続している。
やや良くなっている	家計	自動車販売店	まだまだ低燃費車にするお客様が多く、小型コンパクト車(特にハイブリット車)は人気があります。
		専門スーパー	売上が好調である。
		レストラン	前年に比べ来店者も増えてきており、お祝いでの利用が多い。
		都市型ホテル	やっと、前年並みのお客様動向となった。
		旅行代理店	先行受注において前年比110%程度と法人営業については回復基調にある。
良	企業	製造業(印刷・関連業)	3か月前と比較すると伸び率は悪いが、前年比で伸びているので景気はやや良くなっている。
		サービス業(コンサルタント業)	仕事先の小売店や飲食店の前年同月比と比較すると、もちろん昨年3月の震災で落ち込んだ反動で急回復した店舗がほとんどであるが、その中身を見ると、既存の顧客や市場のマイナス分を店舗の改装や品揃えの変更など新しいことに取り組んでカバーしたところが多い。
		サービス業(広告業)	震災復興の兆しから、消費・流通が増えてきたように思える。
変わらな	家計	商店街代表者	震災復興に関する業種は良いようだが、それ以外は普段と変わらない。
		商店街代表者	毎年、1月は初売りセールを行っております。今年は、昨年と同企画で実施しましたが昨年よりも売り上げ、来店客数とも2割増程と好調でした。この分で行くと3月は景気が良くなっていると回答できるかと思っておりましたが、2月後半から3月に掛けて確実に低下してしまいました。やはり異常低温のせいでしょうか、お客様が買い回らなく、通行量が減っております。土日の引けが早く売り上げが伸び悩んでおります。
		百貨店、総合スーパー	今月は、3か月前と比較すると売上は減少傾向にあるが、それは季節的な要因である。また、前年対比では売上は増加傾向にあるが、震災の影響が大きな要因と推測される。前々年対比では、売上は同等であり、大きな変化が見られないことから景気も変わらないと判断した。
		百貨店、総合スーパー	(3か月前の)クリスマスギフトのギフト需要を差し引くと、流れは変わっていない感じである。
		コンビニエンスストア	買上単価、点数共に大きな変化は見うけられない。来店されている客層の変化も大きな変化は見られない。
		コンビニエンスストア	ここ3か月間の加盟店前年比に大きな変化がなく、利益、売上ともに大きくマイナスやプラスとなる要因がない。
		農産物直売所	昨年の12月より茨城産農畜産物のギフトが落ち込んだが、今も同じ状態である。
		レストラン	年末年始と忙しい時期はあったが、2月に入り夜のファミリーの動きが出てこない(特に夜の利用)。
		観光型ホテル	首都圏からの入込(特にファミリー層)の回復が見られず大きな変動はない。
		タクシー運転手	個人客には上向きの傾向が見受けられない。先行きが不安に感じられる。
		タクシー運転手	売り上げも伸びず、夜の町も静かである。
		観光名所	例年並の動きや売上で推移している。
		レジャー施設	年明けから順調に回復してきているように見えたが、2月になって、また減少傾向となっている。ガソリンの高騰で、出控えの傾向に拍車がかかったように思われる。
		理・美容店	景気の良い話はなく、悪い方へ行くと思います。
		建築設計事務所	年度末を迎え、災害復旧工事も終盤を迎え忙しい状況であるが、その他の工事が動きだしている話が全くない。
住宅販売会社	来店数が相変わらず伸びない。今年度は厳しいままだと思われる。		
良	企業	農業関係者	農閑期なので、特に経済活動に動向はない。
		製造業(食料品)	買い控えが感じられる。厳冬で消費が上向かない。借楽園の梅の開花が遅い。観光客が少ない。
		製造業(窯業・土石製品)	受注が減っている。
		製造業(一般機械器具)	やや良くなっているところと、やや悪いところもあり、全体としては変わらない。
		建設業	不安定な感もあるが、変わらなく推移している。
		運輸業(道路貨物運送業)	年度末の割に車の需要が上がって来ない。
		情報通信業(情報サービス業)	業種を問わず、顧客の多くから、売上高に対する利幅が大きく縮小しており、苦慮しているとの話を聞く。我々の業界でも、競争激化により利鞘の確保が難しい状況である。一部の業界では、明らかに景気回復基調にあると思われる様子も伺えるが、3か月前と同様、全体的には市場の盛り上がり欠けていると感じる。従って、景況感も変わらず、景気は横這いと思われる。

変わらない	企業	金融業	震災による復興関連需要により建設業や設計業等一部の業種で堅調な動きをみせているが、全体的な消費意欲は依然弱いと感じられる。よって3か月前(12月)の前年比を比べると、特に変化はないと思われま
		不動産業	まだまだ家賃相場が下がる傾向にあり、初回契約金の安い所など、探している物件も状況が変わらなく厳しい。
		サービス業(広告業)	年度末に向けた販促予算は、特に大きく削られることも、追加されることもなく推移している。
		人材派遣業	受注・売上ともほぼ横ばいが続いている。
雇用	公共職業安定所	ハローワークにおける求人数は、新規・有効とも平成23年9月までは前年同月比20%以上の増加を続けていたが、10月以降10%台に低下。伸びが鈍化傾向にある。	
	求人開拓員	1月、2月と比較して3月に入り来館数が多くなっており(伸び率126.5%)。求職者は希望に向かって新規一転活発な求職活動を行っております。	
やや悪くなっている	家計	スーパー	客単価に下落が見られる。相場物も売れ行きが悪く、下落している。特売が多く見られて、苦戦しています。
		スーパー	売上、客数ともに減少している。安いものしか買わなくなっている。
		家電販売店	自宅が火災にあって仕事が出来なかったため売上が悪い。
		旅行会社	貸切バス、タクシーの業務ですが、電話も少なく、最近地震も多く、皆様敬遠されているようです。
		ゴルフ場	寒い季節が続くオフシーズン、未だに続く風評被害等のため、予約の申し込みが増えてこない。
企業	製造業(食料品)	福島原発の風評被害が、ここに来ての大寒波と重なって大きく影響を与えている。観光客の減少が大きい。	
	製造業(印刷・同関連業)	受注量が減少している。	
	製造業(金属製品)	昨年後半は、震災の反動により忙しさを極めていた。今年に入ってから、新規案件も減少し、受注も落ち込んだ。	
悪くなっている	家計	スーパー	①スーパーマーケットの出店により、食料品の売上確保が厳しい。②寒さの影響、販売促進が奏功し、衣料品を中心に売上が若干上ブレしている。③全体として厳しい状況が継続している。
		理・美容店	12月は、1年を通してみても忙しい時期(月)であり毎年変わらないが、2月は1年の中でもかなり暇な月である。

(3) 鹿行地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良	－	－	－
やや良くなっている	家計	商店街代表者	プレミアム商品券の売上や震災復興の工事等、需要増に伴い上向きになっているのではないか。
		スーパー	客数が前年比で5%ほど増加している。年齢層は高いが、活発に買物に来店して頂いている感じがする。青果物の相場は高いが、買控えをしている感じはない。数量変化もない。更に、広告を良く見ているお客様が多い。よくチェックして買物に来ている。以前より、価格競争が弱くなっているように思う。各社独自の販売活動が良くなっているのではないか。
		農産物直売所	平日は変わらないが、週末のお客様数が増えてきた。やや気温も暖かくなって来たことも良い。
		洋食堂	ランチ時の客数が伸びている。
		観光型ホテル	大学生達の合宿のシーズンになり、少し利用者が増えてきた。
		タクシー運転手	企業関係の工事が多くなっているため、3か月前に比べればいくらか売上が多くなっている。
		タクシー運転手	今年になってから、売上げがやや伸びてきました。
		団体	宝くじの1等当選が2週続き、やや売上が伸びている。グリーンジャンボの売上が前年比200%を超えて売れているが、一時的なものに感じられる。
	企業	建設業	震災復旧の仕事が継続してある。
		建設業	住宅関係の仕事ですが、震災の復旧が多くなってきている。
		運輸業（道路貨物運送業）	建設土木関連の工事が増加している。
		保険業	震災復興工事が多く出ていて、建設工事関係者が忙しい。
	雇用	人材派遣業	最近の状況では受注が極めて旺盛でありそれに追従する人材不足で、客先にはご迷惑をお掛けしているのが実情である。
		就職支援センター	震災復旧もようやく本格化してきており、鹿島工業地帯関連の雇用が幾分動いてきているように感じられる。一方、その他の地域では、前期から目立った変化は認められず、医療、介護分野の慢性的人材不足と雇用のミスマッチは続いている。
変わらな	家計	商店街代表者	右肩上りの経済で好況時には誰も予測が付け易いのですが、減速経済の右肩下り現況をみると、国内産業の空洞化とか賃金の頭打ちで、国際的にも投機に走る傾向も有り不協和音の状態です。地域経済に要因が複合的に及び、消費意欲を増す未来への安堵感への政策不足に原因が在ると思われま
		スーパー	アルバイトの応募時に聞いてみると、学生の卒業時の仕事あまり見つからないとの事だ。
		コンビニエンスストア	買い上げ点数、客単価は、3か月前比較で大きく伸長しています。景気が良いとは感じませんが、コンビニエンスストアがお客様に必要とされている事は強く感じます。
		コンビニエンスストア	震災から1年が経過する中で、お客様に便利さを感じてもらえるような新商品や品揃えの幅、サービスの拡充で、買上点数は大きく伸長している。一方で、客数は横ばい傾向である為、現状数値は安定しているが、変化が著しいだけに便利さ以上の付加価値が伝わらなければ成長は厳しいと感じる。
		自動車販売店	良くない状態が続いて、なんら変化の様子が見られない。
		小売業（酒類）	毎月の売り上及び客数データから見て、変化はない。
		小売業（金物店）	決算時期に近いため、買い控える所が多く、売上の変化があまり感じられません。
		小売業（書店）	売上げの平均値が変わらない。20：00以降の夜間が特に良くないです。
		日本料理店	特に良い話は聞かれませんが悪くも聞かない。現状を維持していると思います。
		タクシー運転手	公私共、節制を強いられている。
		タクシー運転手	売り上げがほとんど変わらない。
		ドライブイン	東日本大震災以来、大きな景気回復の兆しが見えない。
		ゴルフ場	売り上げの単価、ゴルフ場での買い物みても、あまり購入される方がいない。また、他の所で購入された物の持ち込み(ゴルフ用品、食べ物)が非常に目についたのも影響している。
		ゴルフ練習場	入場者数及び客単価が変わらない。
		理・美容店	震災から一年が経ち、やっと普通の生活が戻ってきて、売り上げが安定しはじめた。しかし、景気が悪い事には変わりがない気がする。
		理・美容店	必要不可欠な物以外の消費が下向きになってきている感じがする。セール品でもあまり購入しない。
室内装飾業	ほんの少しだけ明るい兆しが見えたが、まだまだ力強い兆しが見えてこない。		
住宅販売会社	特別、来場者にも大きな変化はなく、景気の変化は感じない。		
製造業（食料品）	お客様の買い物の仕方は、以前よりそうですが少量で、お買い得感のある商品を選んで買っている様で、売上を伸ばすのも厳しい状況は続いています。		

変わらない	企業	製造業（化学工業）	欧州危機以降落ち込んだ需要が戻らない。特に国内の落ち込みが酷く、稼働維持のため円高を承知で輸出に振り向けざるを得ない状況が続いており、業績を圧迫している。
		製造業（鉄鋼業）	復旧作業が続いており、復旧需要はあるものの、景気自体は横ばいと感じる。
		金融業	震災からおよそ1年が経過し、経済情勢も落ち着いて来ているものの、資金繰りの改善には至っていない。
	雇用	民間職業紹介業	求人求職ともこの1年以上大きく好転することはありません。
		公共職業安定所	震災特需による建設業の求人の動きが高止まりし、減少に転じてきた感がある。また、製造業において、派遣・請負の動きが見られるが、景気が上向いたことによるものとの判断はしがたい。
		学校就職関係者	前回は降新たな求人も少なく、正社員の求人が少ない。内定をもらえない生徒も残っている。
やや悪くなっている	家計	小売業（薬品店）	最近では、新規のお客様や患者さんが減っている。街全体に活気が無いのが残念。
		ショッピングセンター	売上げ、客単価について、今月の前年比と3か月前（12月）の前年比を比べると、今月の前年比の伸び率がやや悪くなっているため、景気はやや悪くなっていると判断する。
		割烹料理店	例年だと、歓送迎会などで忙しい時期だが、思ったほど予約が入らない。震災から1年になるが、断水などで昨年のこの時期に、商売できなかったのが、今までひびいている。
		クリーニング店	苺など、いつもの年より気温が低いため、暖房費が多く経費がかかり、育ちが悪い。ほうれん草は気温が高くなると伸びて、寒いと育たない、気が抜けない様です。値段の上下も激しいようです。被災した家屋などリフォーム、新築するのに出費がかさんでいるようです。
		住宅販売会社	様子伺いのお客様が相変わらず減らない。
		企業	農業関係者
製造業（食料品）	今年、12月から3か月間の売上は、例年と比べ減少傾向にあり、仕入単価の高騰で利益率は低下し、景気はやや悪くなる傾向です。		
製造業（食品）	震災復旧工事がほぼ終了し、行われている工事の規模は小さい。震災復旧工事で平行して前倒しで定期修理を行ったが、秋口には終了して工事関係者が減った。		
製造業（化学工業）	石油化学関係の市場悪化に伴い売上げが減少している。		
運輸業（道路貨物運送業）	トラックの動きが悪い。どこのトラック業者に聞いても、動いていないと言っている。常磐高速でも、走っているトラックは台数が少ないと感じる。		
サービス業	欧州経済不安、タイの洪水、及び資源高により、悲観的な材料が多く、営業活動も低迷している。		
悪くなっている	家計	家電販売店	前年度のエコポイント需要、地上デジタル移行の需要があり、一気に売れた分、しばらくは商品が売れなくなると予測されます。
		観光型ホテル	①出口の見えない風評被害に見舞われ、県外からの宿泊利用者が大幅に減少している。②東京電力の電気料金値上げ。③ガソリン価格高騰。④給料カット。⑤休日返上の雇用状態（手当無し）。
	企業	製造業（食料品）	原発の風評被害が続いている。年末商材にて多少動きが見られたが、現在は悪い。

(4) 県南地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良	企業	建設業	年度末だから、工事が出てくるのは毎年のことである。しかし、今年度は震災のため発注が遅れているのか、今頃になって多くの役所関係工事が出てきた。それに除染工事も加わり、3月末の工事完了の見通しが立たない状況である。これを景気が良くなっていると判断して良いのだろうか。でもそう思うことにする。
やや良くなっている	家計	スーパー	防災用品の売上が増加していますが、3か月前より、客数、客単価ともに伸びているので、やや良くなっていると言える。
		スーパー	震災以降、前年比を割っていたが、ようやく今は売上が前年を上回った。
		スーパー	野菜などが高値で推移したためか、客数と一品単価は上昇してきています。
		小売業（酒類）	震災後の自粛ムードから脱しつつある影響か、飲食店等の人の出入りが良くなってきた気がする。
		レジャー施設	前月（2月）までは入場者数はほぼ横ばいか微減傾向であったが、客単価（売上）が約5%アップした。今月もその傾向は継続すると判断し、対前年同期よりやや良くなると考える。
	企業	製造業（印刷業）	3か月前に比べ、注文件数が増えている。
		製造業（窯業・土石製品）	東日本大震災の復旧復興の工事関係も本格化しはじめ、受注・出荷とも上向いてきている。
		建設業	個人の方の親店開業したいという話が増えている。見積依頼が増えた。店舗改修依頼件数が増えた。
		サービス業（広告業）	年度末が絡むことでの予算調整の影響がありそう。
	雇用	求人開拓員	製造業の求人が増加した。
変わらな	家計	商店街代表者	お買い物は地元商店街で「街づくり振興会」が熱心がんばるが、現実には厳しく、各店舗の売り上げ増加には結びつかない。
		スーパー	昨年と比べ、売上が横ばい。
		スーパー	客数が前年比でほぼ100%で推移している。
		コンビニエンスストア	来店数に大きな変動はなく、客単価の変動も大きくは出ていない。
		農産物直売所	相変わらずお客様は地元リピーターが多く、土曜、日曜日等は、県外ナンバーの車も見受けられます。売り上げも若干伸びておりますが、総じてほぼ横ばいです。
		専門スーパー	3か月前の昨対の数字と今月の昨対の数字が、売上高・客数・客単価共に同じレベルで推移している。
		和食食堂	3か月前と前年比がほぼ変わらない。
		寿司店	12月はとても忙しかったです。今月はまあまあです。但し、周りの店が閉店になったり、まだまだ厳しそうです。
		都市型ホテル	低迷している状況は変わらない。宴会は昨年2月までと比較して平均で単価を下げているままで、3か月前と変わっていない。宿泊もあまり変化が無く、依然低迷したままである。
		都市型ホテル	宴会において件数及び人数は増加しているが、1人あたりの単価が下がっているため、売り上げは変わっていない。
	タクシー運転手	タクシーの売り上げに変化がない。	
	旅行代理店	12月は例年お客様が少なく、バスの予約も合わせて少ない。3月の予約を前年度と比べると、リピーターの予約がほとんどで、新しいお客様の動きが無い。	
	タクシー運転手	一日の売上で比較すると変わらない。新規のお客様も増えていない。	
	タクシー運転手	前年比が変わっていない。	
	ゴルフ場	ゴルフ場に来場する方の年齢層が高めなので、大きな変化は感じられない。	
	ゴルフ場	これといって景気が良くなる情報を耳にする事は無い。	
	パチンコ店	1円パチンコや2円パチンコの客数は横ばいながら、4円パチンコの客数はガタ落ちしている。スロットは少数ではあるが増えているので、平均すると変わらない。	
	ゲームセンター	売上が前年比で下回ったまま回復する様子が見られない。ただし、一定の売り上げ以下にもなっていないので、3か月前と変わらないと思う。	
	建築設計事務所	元請の仕事は少なく、下請の仕事の単価が低い。	
	住宅販売会社	円高が一時より回復し、株価もようやく1万円に近づいてきたので、3か月前に比較すると良い方向に動き出している。	
農業関係者	製造業（家具・装備品）	貯蓄はするが、消費が伸びていない。	
	製造業（家具・装備品）	割合に波の少ない仕事です。高額のものですと2か月位の仕事です。3か月前と比べて、景気は変わりません。	

変 わ ら な い	企業	製造業（食料品）	放射能の影響が大きい様に思います。茨城で生産されたものという事で、他県の人達には敬遠されている様です。
		製造業（飲料）	変化があったとの話を聞かない。
		製造業（窯業・土石製品）	当社は東北地区に3工場所有しているが、がれきの処理などは非常に間に合わない状態が続いているにもかかわらず、当社関係の需要には回ってきていない。全体的には政治の不安定さなどがあり、あまり変わっていないと考える。
		製造業（一般機械器具）	現在、特徴的な動きはない。
		建設業（設備工事業）	年度末の時期でもあり、資材については変わらない。
		運輸業（倉庫業）	保管、在庫数に増加傾向の要因がない。入庫、出庫数量は、例年と比べても変動があまりないので、今月の景気は変わらないと思われる。
		金融業	訪問先や、来店されるお客様の話では、景気回復の話は殆ど聞かれない。
雇 用	人材派遣業	受注が増えておらず、逆に減産ぎみである。	
	公共職業安定所	有効求人倍率は1.2倍前後で推移しているが、産業別にみると製造業からの求人の増加が低調である。	
や や 悪 く な っ て い る	家計	コンビニエンスストア	専業主婦を長くやられた方で、パートをしたいとの要望が増えてます。家計を助ける為との理由が多く、世帯収入の減少が大きくなっているように思われます。男性客が増えてない店舗もあります。
		家電販売店	テレビ需要の反動が大きく厳しい状況が続いている。白物家電は入店が80%前後（前年に比べ）落ち込んでいるが、売上げはほぼ前年並みで推移している。
		洋食食堂	店主達の集まりで皆が言っていました、「2月の売上げは最悪だった」。自分の店の予約も、フリーのお客様も、本当に少ない毎日でしたので。夜の街並を車でドライブしていても、安い単価の店でも駐車場がガランとしています。
		タクシー運転手	昔から2月、8月は暇な月ではあるが、今年は特に震災の影響もあって、会社関係や一般客の、夜にタクシーを利用する頻度がやや悪くなっている。
		理・美容店	美容業界で2月、8月は低迷月なため、売上は落ち込んだ。季節的にも最も寒い時期の為、お年寄りの方は外出を控えているし、お正月に出費がかさむため、2月はきりつめた生活を強いられるようだ。
雇 用	企業	製造業（非鉄金属）	主力自動車メーカーからの受注量は、引き続き高水準にあるが、量的には5%程度減少しており、収益的にも原材料・燃料等のコストが徐々に増えつつある。
		建設業	昨年の暮の24年度の3月以降の見通しは大変良くなると、当社の見込みとして判断していた。しかしながら、輸出が伸びない、受注が減少、30%ダウン、本社から予算が出ない、出荷が鈍いなど、製造業者複数が口を揃えて出てくる言葉、何故急にこんな状況になったのでしょうか？しかも、組合から給料を上げて欲しいとの要求まで出る始末。受注伸びる予定がない。
		不動産業	不動産業全体に於いてパイが縮小している中、個々の業態、規模、資質に於いて顧客の選別の目が厳しくなっており、業者間、業態間格差が拡大している。時代の変化に対応し、顧客目線でお役立ちしている会社は、今がチャンスであり、好業績を伸ばしている。逆に、高齢化、弱体化している会社は非常に廃業が多い。
雇 用	学校就職関係者	離転職者訓練の受験者が多い。求職している人は増えている。	
悪 く な っ て い る	家計	ガソリンスタンド	原油価格の上昇に伴い、元売りからの仕切り価格が上昇しているにもかかわらず、市況が悪く販売価格に転嫁できない。
		代行運転手	お客様の数が減っている。
悪 く な っ て い る	企業	製造業（食料品）	景気が落ち込み客数が減っている。

(5) 県西地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント	
良	－	－	－	
やや良くなっている	家計	スーパー	売上高前年比ポイント約7%増。客数前年比3か月前からポイント約5%増。客単価80円増。特に客単価については、3か月前までは前年を下回っていたが、客単価が前年を超えるようになってきた。	
		コンビニエンスストア	震災以降、コンビニの使われ方は大きく変化し、変化に対応することで売上は上がっている。品揃えを変え、ニーズに応えることで、景気は良くなっていると感じる。	
		農産物直売所	卒業式や企業でも出入りのシーズンのため、全般的に需要が増えると思われる。ただ、余計なものは買わない状況は変わらないと思います。	
		和食食堂	今まで集会等があっても飲食をしなかったのが、最近は食事の注文が入るようになりました。	
		ビジネスホテル	前年度の同時期と比較すると、人の動きが活発である。企業の設備投資が始まったり、工場の移転、進出など、地域的に従前より増えてきているのではないと思われる。	
		ゴルフ場	予約の状況より、やや良くなっていると判断した。	
	企業	製造業（窯業・土石製品）	東日本大震災による、復旧、復興特需のおかげで、現在、工場の稼働状況は100%近いです。しかし、もし、東日本大震災がなかったならば、稼働率は100%を割っているし、たぶん60%ぐらいになっていたと考えます。	
		不動産業	法人の需要が増加傾向。賃貸単価もアップしている。	
		サービス業（広告業）	震災復興の兆しが見える。（あまり影響を受けていない）	
	雇用	人材派遣業	タイの洪水の影響で、少し忙しくなっています。	
		公共職業安定所	新規求人数は復興需要の影響により増加した2月に続き、3月も増えるものと思われる。	
		就職相談員	震災求人以外の求人が若干増えている。	
	変わらない	家計	コンビニエンスストア	店の客数、客単価に大きな変更はありません。お客様の買われる商品の価格帯にも大きな変化はありません。
			自動車販売店	自動車業界は、新たにエコカー補助金が全ての車ではありませんが復活しました。その影響で、多少増販は出来ております。しかしながら、法人様、事業主様からの受注は多くいただいておりません。今なお景気の回復は感じられません。
			都市型ホテル	長引く景気低迷の中、3か月前も低迷していたので、変わらないと思いました。
タクシー運転手			年末年始に問わず常連で車を注文したお店が、迎えに行く回数がめっきり減ってきて、景気も上向きになりにくいと思う。それと共に、お客様を乗せると「運ちゃん、俺もタクシーやりたいけど給料どれ位もらえるんだい」と言う人が多数乗るようになって、仕事へ就くのに大変な時代になったんだと思う。	
ドライブイン			買い控えは相変わらず。客単価が伸びない。	
ドライブイン			来店客数、客単価とも変化はなく、景気は改善される傾向にない。	
ゴルフ場			予約の推移、傾向共に変化を感じない。	
ゲームセンター			悪化している要因はなく、かといって好転している要因もないので、変化が無いとしか言えない。	
レジャー施設			日々のお客様の来館数からみても、景気回復しているとは思えない。お客様とのやり取りから逆に、悪くなる可能性があると思う。	
理・美容店			当店に来られるお客様は、景気についてはそんなに変化はないと思われる。	
住宅販売会社			筑西市周辺の市場はなかなか活性化するに至らない。起爆剤となるような政策が必要。	
ない	企業	農業関係者	震災の影響と原発事故の影響がまだ改善されていない。	
		農業関係者	本年度、大学卒業予定者の就職率が70%と良くなり、卒業、入学時期を迎え出費がかさむ。JAの直売所の売上が前年比大幅アップ、順調に推移された。イベントの開催による来店者のアップが、売上に反映されました。	
		製造業（食料品）	工場の出荷状況もあまり変わっていません。	
		製造業（食料品）	3か月前と比較して、売上高・労働時間共に殆ど変化が見られない。取引先の売上高もあまり変化がないと聞いている。	
		製造業（印刷・関連業）	厳しい景気状況があたりまえになっている。緩やかなインフレが、中・小零細企業にとっても好ましいのだが、まだデフレ進行中というところか。	
		製造業（化学工業）	旧正月後の中国やアジアの景気、受注動向を注視して輸出が増えることを期待していたが大きな変化がない。	
		製造業（一般機械器具）	2月、3月は仕事は多くなった。その為、残業する様にしている。自動車、菓子関係、今月は仕事は多い様にみえる。又、短納である。	
		建設業	原発問題・消費税問題等で景気が良くならない。設備投資も意気込みが感じられない。	

企業	金融業	震災による土木工事関連業の動きは見られるものの、他業種に於いては、依然として消費性の低下により売上伸張せず、現状維持にも苦慮していることから資金需要発生も少ない。市内全体的な景気判断に於いては、現状変化ないものと思慮する。	
	製造業（印刷・同関連業）	年度変わりにも拘らず仕事の注文がない。	
雇用	学校就職関係者	建設資材関連のメーカーが、東北地方の被災地での、今後の需要を見込んで、求人を増やす等、準備を進めているようだが、目立った変化は無い。	
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	東日本大震災の起きた3月11日に近づくにつれて、だんだん悪くなっている。
		商店街代表者	今まで1日に数個は売れていた高価な品が出にくくなっている。
		ガソリンスタンド	原油価格が上昇し、よってガソリン価格も値上りし、1000円分10ℓなど定量、定額給油が増えている。
		タクシー運転手	景気が悪いので出て歩く人が少ない。夜の仕事が特に少ない。
		理・美容店	以前は平日は暇だが土・日に集中するという感じだったが、最近は土・日もやや暇だなど思う日がある。
企業	製造業（印刷・同関連業）	原発事故にともない、今まで増加していた守谷市と取手市の人口が減少に転じている。放射能汚染に敏感な若い女性が転出している。	
悪くなっている	家計	家電販売店	昨年のエコポイント特需もなく、エコ3品（テレビ・エアコン・冷蔵庫）の売上が非常に厳しい状況。現在は買い替え（省エネ商品）が少なく、故障してから購入するお客様が増えてきている為、台数が伸びていない。
		和食食堂	卒業や異動の時期であるが、申し込みが例年より減少している。来客数も単価的にも売上が落ちている。
		鰻屋	来店回数が減っている。
		旅行代理店	野菜が高い。燃料代が高くなるばかりです。軽油125/ℓ近くする。商店（スーパーやコンビニ）の商品を見ると、同額でも中味が少なくなっているみたいです。
		日本料理店	今年に入ってから寒さも加わり、売上げ、来店客数が上がらない。多少、3月になって暖かくなれば良いが。
		クリーニング店	クリーニングに関しては、冬季は売上げ減少です。外回りしていて、仕事が忙しいというお客様は見当たらないです。
		建築設計事務所	顧客先の受注量が減っているため、自社の売上も低下している。
企業	製造業（金属製品）	棚卸し時期も近づき、発注件数、引き合い共に少なくなり、先の見えない状況は深刻なものとなっている。	
	製造業（電気機械器具）	受注量減による人員体制見直しの相談が増えている。	

Ⅲ 景気判断コメント — 2 景気の先行き判断コメント

(1) 県北地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント	
良	家計	小売業（工具）	震災需要が4月以降本格化すると思われる。政府の震災対策が本格化するから。	
やや良くなっている	家計	小売業（時計）	1, 震災特需の影響は確実に上がって来ている。廻り始めてきた。2, 自粛ムードのあった震災以降からある程度の月日が過ぎて、一応お金を使っても良い雰囲気になって来ている。	
		ゴルフ場	1月, 2月と売上, 入場者共に前年度より良かった。	
		レジャー施設	震災から1年が経過し, 徐々に景気が回復しているように想定している。	
	企業	林業関係者	材価等は持ちなおしてくると思うが, 大きな変化があるとは考えられない。	
		製造業（電気機械器具）	新年度より, 新機種に参入できたため, 多少売上げ増が見込まれる。	
		建設業	3か月先も同様に忙しい状況は続くと思われる。	
		不動産業	エルピーダメモリの再生法適用など, 経済の不透明感が消えない。	
	雇用	学校就業関係者	現在の仕事がこのまま継続されるようなので, 一時的であるがよくなっているととれる。	
	変わらない	家計	商店街代表者	世界的な不況（ギリシャなど）に不安を感じている。
			コンビニエンスストア	政局が不安定であり, 個人消費が活発化する見込みがない。被災地での失業手当も先行きが見えず, 地域として経済が回復する予見があるまで回復は難しいと思われる。
衣料品販売店			まだ余震が続いており, 買物に出かける雰囲気ではない。	
金物・荒物・建築資材			当分の間, 需要が見込めそうです。	
自動車販売店			エコカー補助金が追い風になるものの, 更に上向きになるとは考えにくく, またそれに伴い, 中古車が売りにくくなるため, 全体としては変わらないと思われる。	
小売業（酒類）			当分, 悪い状況が続くような気がする。	
スナック			震災からまだ一年なので, 中々順調には良くならないと思われる。	
旅行代理店			余震の影響等で, 遠出でなく近場旅行が多い。	
タクシー運転手			震災の影響が残っている不透明さがある。気持ちだけでも明るく持って, 桜が咲く頃から期待したい。	
タクシー運転手			悪くなるとは思わないが, 良くなる見込みもない。	
タクシー運転手			震災の放射能災害等の影響はまだ後を引き, 夜の飲食街への繰出しの頻度が低い。まだとことんお金を消費してくれない。	
タクシー運転手			この3か月で売上げが多少良くなり, この先3か月も, 引き続き良くなるのはあまり予想しにくい所がある。	
ドライブイン			地震がまた発生するのではという危機感もあり, 遠出を控える傾向が見られる。	
ボウリング場			特によくなる要因がない。	
ゴルフ場		予約の入り方が遅くなってきている。先の予定を組みづらくなっているようだ。まだまだ先行きが不安なので, 直近にならなければ予定が決まらないお客様が増えている。		
理・美容店		景気回復の要因が見当たらず変わらない。		
住宅販売会社		徐々に落ち着きを取り戻しているが, 景気回復まではしばらくかかりそう。		
企業		製造業（電気機械器具）	今後3か月の作業量も横這いもしくはそれ以上の見込み。	
		製造業（電気機械器具）	復興用としての受注は発生しているが, 3か月先に向けて受注数が上昇していくようには考えられない。	
		製造業（電気機械器具）	3か月先, 又, 電力不足による計画停電の実施をするのかしないのか, 先が読めない。努力はしているが, 悪い話ばかりで希望が持てない。	
	製造業（輸送用機械器具）	円高基調継続に伴いカーメーカは地産地消の方針に変わりなく現地生産シフトの動きを活発化しており, 国内生産からの切替が更に加速していくものと想定される。		
	運輸業	ここ3か月で急激に良くなったり, 悪くなったりする感じがしない。		
	情報通信業（情報サービス業）	商談も先送りするケースが多く, 景気が良くなる要因は見つからない。		
	金融業	地元企業の発注による下請け企業が大多数を占め, 特に原子力関係の受注をしている業者においては, 受注量が皆無になるなど企業存続に関わる重大な問題が発生していたが, 一部, 受注が回復傾向にある下請けも発生している。地元企業の早期退職によるリストラがあり, 再就職も無く先行きが暗い状況である。		

		サービス業（広告業）	しばらくはこの状態が続きそう。
	雇用	公共職業安定所	一番の懸念材料は、円高の影響で、比較的中小企業は直接の取り引きがないこともあり、現状は直接の影響はないとする企業が多いものの、先行きは不透明とする企業が多い。
		求人開拓員	今後の受注見込みは、まだまだはっきりしていない為、人の募集は控えている。
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	直近の売上は何とか確保できているが、先の売上が見えて来ない。
		スーパー	今年後半までは低価格指向続くと思われる。かといって、購入する数量は増加しないと考える。
		コンビニエンスストア	販売ベース自体は現状と同様に堅調な部分がありますが、震災後続いていた売上の伸びは期待できない。売上が伸びていけば、心理的な余裕もあり品揃えも良くなっていくが、鈍化してくれば、発注心理も落ち込み品揃えも悪化するかもしれません。
		観光型ホテル	数日前にまた円高となり、この先数か月は経済状況も芳しくないと思われる。
	観光型ホテル	5月、6月は、現時点で予約が大幅に減少している。日にちが近づけば、予約も増加してくると思われるが、例年にない現象である。	
	ゴルフ場	①国内全体が激変しており、先行不安が大きい。②健康第一の為のゴルフへの関心が高まりつつあるが。③6月時点の現在の予約状況は、対前年比50、計画比34ポイント。④平常ベースになるにはもう少し時間がかかる。	
	企業	水産業関係者	原子力の事故の収束がなければ、水産業界はこのまま不景気が続きます。ただ、東電よりの弁償金が思ったより多めだったため、最近、漁業者にゆとりができました。
製造業（電気機械器具）		受注の落ち込みが予想される。	
悪くなっている	家計	スーパー	消費税のアップ（の報道）等が有り、販売に影響がある。
		小売業（水産物）	放射線の汚染が続く限り、先が見えない。
		居酒屋	宴会が少ない。
		クリーニング店	お客様からも良い話は殆どないし、主婦はとにかく節約志向で消費を控えている。

(2) 県央地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	レストラン	前回よりも家族の絆が強くなっている印象があり、また、震災から1年が経過するのも利用のきっかけになっていくと感じます。
やや良くなっている	家計	スーパー	震災から1年がたち、少しずつ景気が上向いていくと思う。円安、日本株高もよい後押しになると思う。
		自動車販売店	(エコカー) 補助金、減税策が購入のきっかけになり、更に年央に向けて販売は好調と思います。
		レストラン	震災も1年を過ぎますので、自粛ムードもなくなり、個人の需要も伸びるのでは。
		理・美容店	6月は梅雨の時期であり、少々パーマのお客様も増える時期ではないかと思われる。
	企業	製造業(食料品)	夏に向けて活動的となってくる。消費意欲向上がみられる。震災の後遺症が薄れてくる。
		製造業(印刷・同関連業)	売上自体はそんなに伸びていないが、経常利益は前年より良い状態が続いており、この傾向は続くものと思われる。
		製造業(金属製品)	現在は、見積り件数が増加傾向にあり、4月以降期待ができる。
		製造業(一般機械器具)	客先の話ではやや良くなるのでは。
		サービス業(コンサルティング業)	今月同様、大震災後の経済活動の低迷や心理的な自粛から脱しつつあり、その分改善していく。引き続き新しいことにチャレンジする動きがあり、設備投資などが見込まれる。
		サービス業(広告業)	借楽園等の梅まつりの時期でもあり、観光産業が伸びてくると思う。
	雇用	求人開拓員	国、県、市町村などの復興予算関連の求人が多くなると予想されます。正社員を希望する求職者が多いですが、長引く不況の中で雇用に結びつけばよいと思います。
	変わらな	家計	商店街代表者
商店街代表者			1か月単位で見ると、売り上げの多い日と少ない日が極端にありトータルすると変わらない。これは、高額商品を求めるお客様が来店した日は売り上げが伸び、低価格を求めるお客様が多い日は売り上げが伸び悩みをします。高額商品を求めるお客様も少し増えて来ている傾向はありますが、安さを求めるお客様もまだ多いので、全体的に景気は良くなっていない。商店街は、観光地と同じように天候に左右されて、寒かったり、雨の日が多いと人の出が悪く歩いて買い回りをしない傾向があります。
百貨店、総合スーパー			来店客数、客単価に大きな変化が見られないことから、3か月先もこの状態が続くと推測され、今後の景気に変化は見られないと判断した。
百貨店、総合スーパー			ここ数か月の流れが平均しており、プロパーの動きも変化があまりない。
家電販売店			品物が動かずTELも少ない(修理も含め)。
農産物直売所			放射能に対するマスコミの報道や流通の対応が同じ状況である為、県外からの来場は見込めないのと、県産品の県外へのギフトは同じ状況であると思われる。
スーパー			東日本大震災による消費マインドは改善に向かうと思うが、消費税増税、電気料金増などは新たな不安材料として残る。
レストラン			歓送迎会から株主総会など、例年の動きになると思うが、一般家庭(ファミリー)の動きはまだ出てこないと思われる(夜の利用)。
都市型ホテル			前年並みのお客様動向とはなったが、県外・海外のお客様は相変わらず戻って来ない状況。その分、県内のお客様が消費している為、前年並みとなっています。近い将来、県外・海外のお客様が戻ってくる見込みは薄いので、変わらないと思います。
観光型ホテル			復興支援団体を除き、茨城への旅行はしばらくは期待できない。
タクシー運転手			景気には回復感がなく、現状が続くと思われる。
観光名所			震災以前の同時期に来館していた団体等の予約数に比して、伸びが緩い感じがするが、おおむね戻ってきている模様なので、期待を込めて変わらない、とする。
レジャー施設			個人客、団体客とも回復していない状況は変わらないと思われる。これ以上良くなる要素が見あたらない。
理・美容店			今が悪いのですが、これからも同じと思います。
住宅販売会社			来年度も前半はこの状況が続くと思われる。
企業	製造業(窯業・土石製品)	4～5月にある程度まとまった仕事の受注が出来ている。	
	運輸業(道路貨物運送業)	各メーカー共、製造量を増やす計画がないようである。	
	情報通信業(情報サービス業)	震災後、様子見であった新規投資の話題が、少しずつ出て来てはいるが、やはり、市場の主役となる大手企業の動向が、景気回復を判断する大きな要素になると思われる。又、一部の顧客から、決算状況によっては投資を前向きに捉えて行きたいとの話もあるが、まだまだ流動的どころが感じられる。従って、3か月先の景気は、期待は持つが現状横這いと考える。	

変わらない	企業	金融業	生活防衛の為に貯蓄意欲が依然高い。よって消費に回すお金に変化はなく、客単価や利益率に特段の変化もなく景気も変わらないと判断致します。
		不動産業	現状が上向きでない。
		サービス業（広告業）	復興需要も落ち着き、普通の状況に戻っている。
	雇用	公共職業安定所	平成24年1月、管内主要企業約300社に対して行った調査結果(回答約170社)では、ほぼ全産業分野において「先行き現状と変わらず」との回答が大半であった。製造、飲食サービス業では悪化を見込んでいる。
やや悪くなっている	家計	スーパー	震災の影響から、引きつづき買い控える傾向だと思います。年金問題、消費税アップなどにより、消費者心理は厳しいと思います。
		コンビニエンスストア	昨年との比較となりますが、震災による特需も落ち付きを見せる中で、徐々に購入意欲が薄くなる可能性が高いと思われる。
		コンビニエンスストア	震災から1年が過ぎ、昨年の特需に対する反動が発生し、売上、利益の低下が考えられる。
		専門スーパー	震災需要がなくなってくる。
		旅行会社	例年5月の遠足が、今年は10月に集中して予約が入り（なぜだか分からない）、4月末から5月の予約が空欄が多い。
		ゴルフ場	続く余震と風評により、お客様が敬遠している様に見受けられる。
		建築設計事務所	公共の災害復旧工事も年度末で大半が終了し、様子をみていた民間が若干動き出す程度と思われる。
	企業	農業関係者	中東情勢の不安定懸念から燃料の高騰など、生産費が増大の傾向と予測する。
		製造業（印刷・同関連業）	良くなる要素が見当たらない。
		製造業（精密機械器具）	3月は年度末の為、当月受注・当月売上により、この月だけ実績が増加する傾向にあります。加えて、超円高やユーロ安が改善し、安定化されつつあるので、その波及効果が期待されます。
雇用	人材派遣業	生産機能の海外移転が進んでいる。	
悪	家計	タクシー運転手	勤める会社のメインのお客様である業界が接待自粛になるようで、厳しいように思える。
	企業	製造業（食料品）	天候の回復はみられるだろうが、風評により観光客がどの程度戻ってくれるか見込がつかない。

(3) 鹿行地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント	
良	－	－	－	
やや良くなっている	家計	商店街代表者	震災復興需要増はこころばらく期待できる。特に土木、建設などは、前年より売上を伸ばしており、地元関係中小企業は恩恵を受けている。	
		スーパー	販売方針を間違わなければ、緩やかな伸びを継続していけると思う。固定客も増加して、来店頻度も増加していくと思います。	
		自動車販売店	震災の復旧作業が進んできた。	
		農産物直売所	春から夏に向けてのバスツアーのお客様の予約やギフトなどの問い合わせが増えてきた。	
		衣料品販売店	行事ニーズでもあるが、一客単価が上がってきている。(昨年比べても108%)	
		洋食食堂	復旧関連の公共事業をメインにして、お客様の流れが続くと思う。	
		タクシー運転手	企業関係の工事が、以前に比べ多くなってきていると思います。	
		ドライブイン	観光資源に対する原子力災害の風評被害がいつまで続くか心配。	
		ゴルフ場	時季的な事でもあるが、ご年配の方、コンペなどの大人数のご予約が多数入って来ている状況を見ると、やや良くなりつつあるのではないだろうか。	
	ゴルフ練習場	ゴルフ場のプレー費等、単価が低めに推移している。特に定年退職後の熟年プレイヤーが活発に行動して、それに伴い、練習場での練習が増えている。この傾向は続くと思われる。		
	企業	製造業(化学工業)	年度末に向けた在庫減らしも絡み、今が底だと思われることから、大きな需要回復は望めないまでも、4月以降徐々に出荷は増えると予想している。	
		建設業	現場仕事や見積り等出てきている。	
		建設業	住宅の震災復旧が多くなるだろう。	
		運輸業(道路貨物運送業)	引き続き工事が出ると思われる。	
		金融業	本格的な復興需要はこれからと考えられることから、資金需要についても見込んでいる。復興特区を申請し、期待感もあると思われる。	
		保険業	最悪期は脱した様に見える。銀行引き落とし不能が減って来ている。	
	変わらない	家計	商店街代表者	一例ですが、日本の国策でもある自動車及び関連産業もドル建て取り引きの為、ドル安から大きな欠損を出してしまいました。それだけでも地方経済にも大きな影響が産業地元以外にも波及し、又、化学産業にも一部及んでいると思います。更に知的所有権を踏まえた国益で、懐具合を良くするには交易の上でもアメリカ、EU等の経済の安定化、進化が不可欠です。
			スーパー	お客様が安い目玉商品を集中して買っている。
			コンビニエンスストア	雇用や賃金、将来への不安感が無くならない限り、景気は今と変わらないと感じます。エリアとしては、震災特需が引き続き中では人の流入も多く、現状の高い消費動向に変化は無いと考えています。
コンビニエンスストア			行楽シーズンに入っていき時期だが、休日の動きが非常に不安であり、特に流入する客層の客単価はシビアではないかと予測できる。日頃から利用頂いているお客様の単価や来店頻度を高めて、ペースを高めていく事で数値が保たれると感じる。	
小売業(酒類)			災害の復興で一時的に回復した時もあったが、現在、むしろ回復するという理由が無い様に思います。(国内が政治的に安定しなければ、現状では困難ではないかと思えます)	
小売業(金物店)			企業の業績が悪いため、期待はできない。	
小売業(書店)			昨年3月より大きな変化(売上・客数共に)が見られないため、今後も大きな変化があるとは思えない。	
ショッピングセンター			景気の先行き不透明感は強く、消費者は抑えめの行動となりそうであり、売上高、客単価とも、当面横ばいにて推移するものと思われる。3か月先もこの傾向は続くものと思われるので、景気は変わらないと思う。	
割烹料理店			野菜など、材料の仕入れ値が上がっているなど、景気が上向くような事例が少ない。	
日本料理店			秋ごろから地元大手企業の合併の話があるので、少しは動きがあるかもしれませんが、それまでは変わらないのでは？	
タクシー運転手			浪費が許される状態ではない。	
タクシー運転手			売上げは変わらないと思う。	
理・美容店			今の政治では、景気の回復は難しいと思う。	
住宅販売会社	お客様にとってもすぐ決断できる時期ではないのかもしれない。			

変 わ ら な い		住宅販売会社	住宅で景気が良くなるような要素は感じられない。もう少し先には、消費税増税でのかけこみ需要として一時的には景気が良くなる事は想定できるが、当面はまだそこまでは行かない。
	企業	農業関係者	ハウス栽培は原油価格の影響を非常に受け易い為、このままの状態が続くと収入は大幅に減少する。気候が平年並みに戻り、メロンの生育が順調であることを見込んでいる。
		製造業（食料品）	相変わらず動きが鈍い。原材料の値上げの通知が届き始めた。しかし、商品に対して値上げがままならない状態である。
		製造業（食料品）	昨年度、震災で大幅に売上を下げ、いろいろな状況下をくぐり抜け景気回復を願い努力をして来ましたが、大幅に売上アップ・回復に繋がる要因が見つからない。春を向かえ暖かくなり、人出が増える事を望みたい。
		製造業（食品）	定期修理関係者が増える予想されるが、それ以外は景気が現状よりよくなる要因は見当たらない。
		団体	4月に入ると、消費の引き締めがまた当分続くと思う。
		製造業（鉄鋼業）	当面は、復旧作業がメインであり、横ばいの状態が続くと思う。
		運輸業（道路貨物運送業）	新年度になってもはっきりしない貨物の動きとなって来る傾向にあると考えられる。生産量が少ないので、決して潤沢な貨物扱いにはなっていない。
雇用	人材派遣業	派遣事業者としては希望として現状と変わらないことを願って変わらないとしました。	
	民間職業紹介業	今後も景気が良くなりえない限り、現状のような状況で推移するものと思われま。	
	学校就職関係者	明るい材料がなく現状のまま変わらない。	
	就職支援センター	現況から近い将来、全体的な底上げが期待できないと思われる。	
やや悪くなっている	家計	小売業（薬品店）	食品・光熱費・ガソリンその他もろもろの値上げが、消費意欲を下げる気がする。
		理・美容店	消費税の増税の話題や、電気代の値上げの話など、先行きの不安感からなるべく消費を控える傾向になると思う。
		クリーニング店	農家など、この所の天気が悪い為、次の作付けが遅れている。遅れている所に育ちが悪いと、生産量や値段にも影響してくる。4月から電気料の値上げがあるのも大きい。
		室内装飾業	仕事の量が激減している中、受注単価の更なる値引きで経営が成り立たなくなりそうだ。
	企業	製造業（食料品）	これからの3か月は毎年売上げが減少する時期でもあり、（利益が良くなるはずの前3か月が売上減少だったので）更に景気は悪くなると思います。
		製造業（化学工業）	定期修理期間となり生産が減少するため、悪化すると思われる。
雇用	公共職業安定所	現状では雇用維持しているが、今後、不透明な状況化では、との声がある。	
悪	家計	家電販売店	需要の先食いをしている。
	企業	サービス業	特に欧州の経済不安と資源高は今後も続くと思われる。また、中国の減速もあり、低迷と予想する。

(4) 県南地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良	-	-	-
やや良くなっている	家計	スーパー	客数が増加してきているため、売上は回復していくと思われる。
		スーパー	昨年の震災特需で3月後半から5月位まで売上の実績はありますが、昨年6月になるとだいぶ落ち着いてきたと記憶している。現在と違うのは、昨年6月頃不足していた商品も今は入荷しています。
		小売業（酒類）	新年度に入り、震災の復旧工事が更に増えるかも。
		専門スーパー	震災後の節電モードや放射能への過剰な反応も少なくなってきた。
		和食食堂	大雪、震災の復興が進んでいると思う。
		パチンコ店	スロットの客数が少しずつ増えていますので、パチンコも低貸玉(1円, 2円パチンコ)は良くなると考えられます。
		理・美容店	春は衣替えの季節だし、新生活や（気分的にも）ヘアスタイルチェンジの時期の為、売上は見込める。
		住宅販売会社	徐々に景気回復が見えてきたので、来年度前半から良くなる見通しが出てきた。
	企業	建設業	近隣駅前(土浦)の空きテナントの動きがでてきている。しばらく空いているテナントの入居が進む心配が感じられる。震災改修ではなく、今後の投資改築の依頼が多くなっている。
	雇用	求人開拓員	全産業別の求人が増加しつつある為、景気はやや良くなるであろう。
変わらない	家計	商店街代表者	一般家庭の使用電力料金の改正が検討されているようですが、値上げ幅によっては一時的といい、世帯の消費支出にも慎重になり、抑制され、景気も滞るのではと考えられる。
		スーパー	昨年の震災特需で売上が増加していた分、前年割れになると考えられるが、その他に景気上昇の兆しがないので変わらない。
		スーパー	商圏人口において減少傾向がない。また、買上率が、前年クリアが継続すると思われる。
		コンビニエンスストア	プラス要因が見つかりません。マイナス要因も見つからない状況。
		コンビニエンスストア	価値を感じて頂けた商品、サービスに対しての積極的な購入活動をされるお客様は確認出来るが、全体的には大きく変動していない。
		農産物直売所	私どもは農産物直売所ですので、安心、安全、新鮮な物を提供することにより、自然にお客様が入ってくれるよう努力するだけです。
		ガソリンスタンド	現在のような状況が継続すると予測される。
		洋食食堂	景気よりも、長いお付き合いのお客様に支えられている部分が多い。仕事の様子も大事であるが、自分の店に関しては、店とお客様のお付き合いがどうつながっていくかが大事です。
		寿司店	希望的観測として、「変わらない」と回答しました。飲食業の仲間と話しても、誰一人として忙しい話が出ず、皆、もっと景気が悪くなるのではと話していました。
		都市型ホテル	今後3か月先を含めても先々平均を下げ、低迷したままで特に大ブレせず変わらないと思います。接待的な部分もあるレストラン個室営業は、厳しい状況が見込まれる。その分個人需要で伸ばす施策等で盛り返しを図っている。
		都市型ホテル	現況と同様に単価が下がっている為、予約件数を増やす努力をしているが、売り上げアップまでには届かないと思われる。
		タクシー運転手	良くなる要因もなければ、悪くなる要因も、3か月では変わらない。
		タクシー運転手	震災の影響から立ち上がらなければ、何も変わらないと思う。
		ゴルフ場	ゴルフ場のお客様の景気観測は、とりあえず大きく変化しないとの意見が多い。
		ゴルフ場	やはり、消費税が上がる、又は、企業年金損失等、暗い話題が多く、現在の状況と変わらないのではないかとと思われる。
		ゲームセンター	半年程度同じ状況が続いているので、急に良くなったり悪くなったりするとは考え難い。
		レジャー施設	入場者の横ばいから微減傾向が続くと、客単価の微増を維持しても変わらない状況になる。
建築設計事務所	税理士の話からも、どこも不景気であるらしい。		
企業	農業関係者	農業部門での収入が入っていない。	
	製造業（食料品）	景気が良くなる材料が見当たらない。	
	製造業（飲料）	社会全体に、閉塞感がある。	
	製造業（窯業・土石製品）	震災の復旧復興もしばらく続くと見られるが、復興予算は東北3県に集中している。	
	製造業（一般機械器具）	現在、特に景気の良くなる材料が見当たらない。	

変わらない	企業	建設業	3か月先は、震災関係、除染関係の工事も一段落して、小康状態であると思う。役所工事は今ほど出ていないと思うが、民間工事が震災から1年以上になるので、結構出てくると考える。
		建設業（設備工事業）	年度が変わり、官公庁より入札等が発注される予定である。
		運輸業（倉庫業）	今後、出庫数量が多い荷主もあり、売上げは少しではあるが増加すると思われる。しかし、全体的に荷動きが低調。景気が良くなる状況は見当たらない。
		金融業	原油価格の高騰の影響等で運送業に限らず、様々な業種が影響を受けると思われ、今後景気の回復が見込まれるとは思えない。
雇用	サービス業（広告業）	新年度が始まり、とりあえず静かに見守る時期だと思える。	
	公共職業安定所	2月1日現在で管内主要企業の業況調査を実施したが、先行きの不透明感が強い。	
やや悪くなっている	家計	スーパー	良くなる要因はなく、公共料金等の値上げがある。
		旅行代理店	前年の予約件数から見ると予約が少ないと思う。旅行業は今、先が見えない状況であることをふまえて、やや悪くなっていると思う。
		タクシー運転手	景気回復がまだまだですし、この先の何か明るい見通しに期待が持てません。タクシー利用客が運転代行に流れている。（料金が安いため）
		代行運転手	つくば、牛久地区は、独立行政法人、大手企業など多数あるが、景気悪化に伴い、外食を控えているお客様が多いと感じる。
企業	製造業（家具・装備品）	受注額が下がってきていますので、売上も下がっています。	
	製造業（窯業・土石製品）	家庭でも企業でも原油価格の高騰、電気料金の値上げ等、心理的な部分の影響がででくと思う。	
	不動産業	世界の中での日本の位置関係、政治の国策の弱体化、空洞化等、どれをとっても悪化要因が多い中、ニーズに 대응対応の良い企業は一部のみ良いと思うが、やや悪くなってくると思う。	
雇用	学校就職関係者	ガソリン代が値上がりして生活にかかる経費が必然的に増えているため、他に回っていた予算を削ることになり、消費が低迷し景気がわるくなると考える。今後ガソリン代についてはまだ上がる可能性が指摘されている。	
悪くなっている	家計	家電販売店	引越しシーズンにより一時的には回復すると思われるが、映像関係の今後を考えると非常に厳しく、他商品でも大きな伸びは期待出来ない。
	企業	製造業（印刷業）	電気料金をはじめ、保険料も上がる為、景気は悪くなると思います。
		製造業（非鉄金属）	受注量は、引き続き水準は高いが、昨年11月をピークに徐々に減少傾向にある。加えて4月以降のコスト低減要請が強く、且つ電気料金の値上げを価格転嫁できにくい状況と原材料価格、燃料代高騰のコスト吸収にも時間を要することから、業績面は大幅に悪化する。
企業	建設業	当社の取引先は、20年、30年以上の企業先が多い。3か月先、半年先までの情報は詳しく入っていました。しかし、今年に入って、各企業とも今年の見通しは立てられない、分からない、景気の前測はできないと言う。震災で、どこの企業も何らかの被害は出ている。なのにそのまま放棄し、修理をしない。それどころではない、雨、風のげればよい、我慢できるからと、お金を使う事に慎重になっている。	

(5) 県西地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良	-	-	-
やや良くなる なっている	家計	コンビニエンスストア	お客様の購入される商品の価格帯に大きな変化はないものの、品揃え等を改善する事で買上点数（一人のお客様が購入される商品の数量）は増加傾向です。また、世間で買物弱者と呼ばれるお客様の来店が増加しており、この様なお客様はまとめ買いをされる事が多く、買上点数を押し上げる要因になっています。
		コンビニエンスストア	震災から1年たち、お客様を当時を振り返る時期にきている。この1年でコンビニの使われ方は大きく変化し、今後も品揃え次第でまだまだ伸びる可能性がある。ニーズは急速に変化しているが、対応することで景気は上向きになると考えられる。
		タクシー運転手	大手企業が市内に誘致され、都内の方からも人が来訪すると思われるので、忙しくなりそう。又、新しいお店もちらほら見受けられるので、タクシーの電話注文が増えるのではないかと。景気はやや良くなると思う。
		理・美容店	4月に新年度を迎え、気候も暖かくなるので、髪をスッキリさせようと思うのではないかと。
		クリーニング店	春先の衣替えで、品物の点数が増加することを期待します。
	企業	製造業（食料品）	求人の方もふえているようだし、寒さも緩いできて人も動き始めるのではないかと。期待もこめて良くなって欲しい。
		製造業（食料品）	得意先との取引の中で新しい商品がポチポチと立ち上がってきている。最近、新商品が小ロットのものが多かったが、今回は長いスパンで注文が期待できそう。又、期待したい。
		製造業（化学工業）	国内半導体推移の統計では在庫の伸びがマイナス領域に入ってきており、このまま推移すればいずれ多少の景気回復につながってくると思われる。また、海外はスポット的受注が見られるようになっており、期待も込めて若干は上向いてくるという見方をしている顧客も少なくない。
		製造業（窯業・土石製品）	大震災の復興特需が景気を押し上げていくものと、現時点では考えております。
		製造業（金属製品）	国内の基幹産業（自動車）にやや上向きの動きがあるので、希望的観測も含めて判断している。
		不動産業	売買客が活発化している。
	雇用	公共職業安定所	2月1日現在の業況調査の結果では、雇用人員の不足について、最近と先行きでは同数という結果が見られた。求人数は、現在の状況が維持されるものと思われる。
	変わらない	家計	スーパー
自動車販売店			取引先のお客様で、製造業に従事する方々も沢山います。話を伺うと、先行き不透明な話ばかりです。これから先どうなるものかと、とても心配です。
農産物直売所			各企業の業績が良くないようなので、景気が良くなるとは思えない。政治も不安定の中では、マイナス要因しか見当たらない。
和食食堂			増税や原油価格の値上がり等々、負の要因が多く、景気回復に確実性が見えない様に思います。
鰻屋			景気が良くなる材料がない。
都市型ホテル			全体の予約状況を見ても、例年以上の伸びもなく、今のところ例年並みである。
タクシー運転手			私共の地区はデマンドタクシーを利用する人が多いので、特に老人の乗車が少ない。工場、その他は、会社により景気の良い所と悪い所がある。
ドライブイン			景気回復の兆しが見えない。
ドライブイン			景気が改善される要因は見当たらず、お客様の消費行動にも変化は見られないため改善はされないとと思われる。
ゴルフ場			コンペ予約状況より、変わらないと判断した。
日本料理店			景気不透明。明るい話題が少ない。
理・美容店			円安が持続できればいいとおっしゃる方は多い。通勤用のガソリン等がもっと安くなればと思う。家庭用電気料金の値上げは痛いという人は多い。
建築設計事務所		これ以上の景気低下は無いにしろ、景気上昇も望めない。	
企業	住宅販売会社	震災から1年になるが、この状況はしばらく続きそう。	
	農業関係者	震災や原発事故が改善されない。	
	農業関係者	6月～9月までの時期は、果実（メロン、スイカ、梨）の出荷時期。この期間のイベント開催により、来場者の大幅アップを図る計画を作成中であります。	
	製造業（一般機械器具）	他社より見積依頼が多くなったが、納期がないため、見積をしても受託する事が難しい。	
製造業（電気機械器具）	中、長期的な見通しは不透明であり、増員・増産の話も入っていない。		

変わらない	企業	建設業	諸問題が解決されない限り良い方向には向かわない気がする（特に政治が問題）。
		金融業	原油高、円高の影響にも販売価格への転嫁に苦慮し、収益面での圧迫により苦汁をなめている状況が続いている。また、市内において震災関連の公共工事も落ち着きを見せていること、現状では景気回復に繋がる要因は見られないことから、特段の変化ないものと思慮する。
		製造業（印刷・同関連業）	良くなるとは思えません。注文がありましても、利益率は下げ止まりません。
		サービス業（広告業）	大半の所が新年度になる為、とりあえず様子を見るタイミングかと。
	雇用	人材派遣業	仕事が安定していないので分かりません。
		就職相談員	求人増は非正規社員の増であり、先行きは不透明である。
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	7月に首長選挙があるが、選挙は商売にはプラスにならない。
		商店街代表者	負の連鎖、まさしくその言葉が当てはまる最悪の状況だと思います。消費に光が見えてきません。
		家電販売店	家電メーカーの赤字決算により、需要と供給のバランスが悪く、デフレ傾向にある。主力商品の売上不振から3か月先も景気は悪くなっている。震災後、オール電化・太陽光・リフォームなども販売できているが、台数が見込めない。
		ガソリンスタンド	公共事業が減少し、土木建設関係のお客様の燃料消費量が減っている。
		和食食堂	毎年この時期は売上が悪くなることではあるが、今年も同様に、単価や利益率が減少する傾向になると思われる。
		旅行代理店	世界状況から見ても、燃料代は安くなる要因がない。デフレならば値が下がると考えてはいけない。生活品の衣類など安い物があるが、品質は落ちている。
		ビジネスホテル	企業の設備投資が一段落して、次のステップがまだ見えてこない。例年通りの動きはあると思うが、状況は横ばい、又は、若干下降気味になるのではないかと。
		ゴルフ場	予約に伸びが見られない。コンペを中心に安価なゴルフ場に流れている。
		ゲームセンター	通常では3月は異動などで来客数が増加するのだが、今は減少しており、この状態はしばらく続くと思われる。
		レジャー施設	毎日のように、公共料金の値上げ等の報道があり、3か月前以上にお客様の財布のひもが固くなりそうだ。
	企業	製造業（印刷・同関連業）	消費税増税を国会で審議中だが、決定になると零細企業はどこまでダメージを受けるのか。零細企業にとって、消費低迷などマイナス材料はいくつもあるが、売上増に結びつくプラス材料はなにもない。
		製造業（印刷・同関連業）	印刷業界は不況が構造化している。需要が年々減少しており、価格の下落が止まらない。
	雇用	学校就職関係者	原油価格の高騰により、鋼材価格の上昇・物流コストの上昇が予想され、主に製造業は苦しくなると考える。
悪	家計	タクシー運転手	デフレ景気となっている。

Ⅲ 景気の判断コメント — 3 その他の意見

(1) 県北地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	明るい材料がない事がやはり政治と合まって円高のメリットがない。日本は世界から見て、経済力、国民の団結力はあると思います。震災を契機に皆で困難な将来を見ずして頑張りましょう。
	商店街代表者	同業者や取引先の倒産が心配されている。金融緩和による効果に疑問符がつく。長びく仕事量の減少、受注金額の低下により企業体力が無くなって来ているところに、じりじりと資材が上がって来ている。
	スーパー	3月1日朝の地震にて、防災関連の動きが増加した。販売する側としてはプラス材料になる。
	コンビニエンスストア	経済環境は良いと言えない状況であるが、求人に対しての反応が弱い。野菜の価格高騰から、スーパーでの欠品が減っていると共に購入機会が減っている。
	小売業（酒類）	高級酒が売れなくなっている。
	小売業（水産物）	他県からの観光バスや、個人での買い物客や観光客が激変している。茨城全体が風評被害にあっているため、県全体で何か行動をしないとまずいと思う。
	スナック	日立地区は、震災の被害も大きかったと思いますが、道路工事や解体工事も進み、街全体が復興に向かっている様に感じます。
	和食食堂	フリーの客が減っている。
	タクシー運転手	安い小旅行に応募したが、日程によって人が集まらないみたいで2～3回お流れになって中止になってしまった。旅行業界も大変な様子だ。
	タクシー運転手	地元大手企業で、4月に活発な人事異動があるとの話を聞きました。これにより、3月末～4月初めにかけて歓送迎会が多くなる事が予想されるのですが、その後、タクシーを利用して頂けるのかが大きなポイントかと思えます。
	ゴルフ場	平日のゴルフプレーで、若年層のプレーヤーが減った気がする。
	ゴルフ場	①料金前年比5～8ポイントダウンの流れ。②放射能値公表による影響からまだ抜けきれていない。③東京近郊からの来場、減少傾向。④震災、政治動向がまだ予断を許さない。
	レジャー施設	新聞折込の「求人チラシ」が増えたと感じます。春先ということもあるのかもしれませんが、景気回復の兆しかと思えます。
	ゴルフ場	1名様の組合せ予約（一人でもゴルフがしたい方同士が1組となってプレーできるシステム）が増えている。単身赴任も増え、なかなか仲間と都合を合わせるができない方が、1名様組合せ予約を希望し来場している。この傾向は、今後続きそうである。
	理・美容店	震災の復旧は大分進んでいるが、同時に家の取り壊しや廃業も多い。
クリーニング店	地元大手企業で大規模な早期退職者を募り、大きな景気の落ち込みになる予想です。	
企業	水産業関係者	有効な対策が取れず、復興は先になります。
	製造業（精密機器）	久しぶりにハローワークを経由して人を募集したのですが、派遣をしていた人が多いですね。派遣だと仕事を覚えられないでしょうから、本人の為、日本の為にもあまり多いと問題ですね。
	製造業（電気機械器具）	半導体関連の受注が落ちている。
	製造業（電気機械器具）	野菜の値段の高騰、ガソリン価格の上昇がみられる。
	製造業（電気機械器具）	新規案件の中で、環境関連のものが多くみられる。
	建設業	労務者や建設機械等の不足感が一層強くなっている。仕入コストの上昇が著しい。
	金融業	震災の影響により市内飲食業者の大多数が什器、材料等に被災を受け営業を一時停止せざるをえない状況に陥ってしまった。その後、営業開始するも地元企業の従業員を対象としている為、需要が鈍化し、現在も震災前の売上高には戻っていない状況にある。まだまだ深刻さを感じさせられる。お店の方も売上増加を図る努力を行うも以前に戻ることは無い。
	不動産業	中古再生住宅など、値ごろ感のある商品に顧客の反応が良くなってきた。
雇用	公共職業安定所	管内の企業で、12月、1月と比較的大規模な会社都合による離職があった。他への波及が心配されるどころです。
	学校就業関係者	震災で止まっていた仕事が再開に向かっている傾向が見られる。
	求人開拓員	内職（検査・シール貼り・袋入れ等）が出てきたが、中断していた仕事の復活なので、これから上昇ラインに向かうかは、安心してられないと言っていました。（内職事業所）

(2) 県央地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	B級グルメなどの比較的に安価で近くで楽しめるイベントは人気があり、すごい人でにぎわっている。復興イベントなど行政や地元商店街などが、どんどんと企画して街全体を盛り上げてほしい。
	商店街代表者	1月4日に県三の丸庁舎脇に水戸市役所臨時庁舎が開設されました。水戸市商工課の説明では2月、3月現在の市職員は役420名と毎日約1000名が来庁されているそうです。庁舎開設により、中心商店街の飲食店では来店客数が増えた所もあります。当店においても、水戸市役所の移動や名称変更により受注がありました。
	百貨店、総合スーパー	最近、食料品の日配品等は好調に推移しているが、衣料品等は低調に推移している。
	百貨店、総合スーパー	高額品の動きがあり、都内店舗等でこれまでお買物されていたお客様が、地元でお買物される機会が増えてきているのではないかと思います。
	スーパー	震災後の、一部の一年経ってのイベントや応援の企画などが、少しは効果あるかも知れません。
	コンビニエンスストア	円高により、輸入品の販売が伸長していると思われる。
	農産物直売所	観光バス(梅まつり経由)等、前年の半分の台数の立ち寄りになっている(乗っているのは年配の人のみ)。
	専門スーパー	永く使える良いものが売れている。
	スーパー	東京電力より電気料金17%アップの説明を受けましたが、年間1,000万円近い出費は大変です。
	レストラン	震災から1年が過ぎ様としているが、この1~2月にかけて法事利用の予約が増えている。また、ランチの利用で女性客の動きが少し活発になってきていると感じられる。
	レストラン	県外からの来客数はまだまだ少なく感じます。新年度からは、観光客が増えて頂けるようなアピールが出来ればと考えます。
	観光型ホテル	震災以来、西高東低の状態が続いていて、イベントなどスポット的なもの以外は、県外から茨城方面にはあまり人が動いていないような気がする。
	旅行代理店	個人営業は、間際申込みが増えており、先行受注の見通しが見えてこない。
	タクシー運転手	街の中心部にはマンションが目立ち、商店の閉店が増加しているように感じられる。
	タクシー運転手	お客様からも良い話は聞かない。
	旅行会社	軽油、灯油などの値上げも一週間で変動があり、これから先を考えると不安がいっぱいである。
	ゴルフ場	お客様を見ていると、プレー本位で他(食事、売店での買い物等)にお金をかけていない様子が見られます。
	レジャー施設	予約状況を見ても回復傾向は見られない。
	理・美容店	建築関係はまだ忙しくて良いのですが、その他(私共のお店)は、だんだん悪くなって行くと思います。
	建築設計事務所	消費税の増税によりますます景気が悪化すると思われる。
企業	農業関係者	TPP交渉参加の先行きに不安を感じている。
	製造業(食料品)	原発放射能の動向が案じられる。
	製造業(食料品)	観光客の減少の大きさに恐怖を感じる。
	製造業(印刷・同関連業)	周辺で新店が見られたり、滞っていた屋根の修理が始まるなど明るさがわずかに見られる。
	製造業(窯業・土石製品)	中国産の石材が2月に急激に値上がりした。
	製造業(一般機械器具)	全体的にやや良くなっているような感じ。でも先は本当に見えません。建設機械関連、自動車の一部は良いです。
	製造業(精密機械器具)	昨年6月に「水質汚濁防止法の一部を改正する法律」(改正法)が成立しました。この影響と思われる計測装置の受注・売上が例年になく増加傾向にあります。
	建設業	先行き不安定な感がある。顧客間の信頼感が相変わらず薄れているものの、震災後一部に安心感・信頼感が芽生えてきた。
	運輸業(道路貨物運送業)	毎週のように油の価格が1~2円単位で上昇している。
	情報通信業(情報サービス業)	少子化の問題もあるが、消費低迷を脱するには、年配層の財布の紐を緩めることも対策の1つと言われて久しい。しかし、路線バスなどの公共機関の路線廃止や減便などが、外出機会を失わせていることになり、消費拡大への阻害要因になっていないかと考える。車社会の中で、自己運転が無理な年配者は、購買意欲があっても行動に移れない。何か対策は無いだろうか。
金融業	震災以降、土地の売りが控えられていたが、少しずつではあるが、購買意欲の回復が感じられ、より堅調な動きとなっております。茨城県内からの来店客や観光客は特段の変化はないが、首都圏からのお客様が例年より減少し、それが続いていると感じられる。	

	サービス業（コンサルタント業）	水戸市の中心市街地では、空き店舗への新規出店がいくつか見られた。これは、臨時市役所が移転してきたことをビジネスチャンスととらえた動きといえる。また、大震災で建物が取り壊された後更地となっていたところに、新たに店舗や駐車場ができるなど新陳代謝が進んだ。
雇用	求人開拓員	個人ではここ2～3か月寒さが続き灯油の値上げ、企業では通勤又は、営業で使用のガソリン代の値上げで個人・企業共に負担が多くなり財布の紐が固くなるでしょう。

(3) 鹿行地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	来客の女性のお金の使い方を全般的にみると、目的買いが多く、消費に敏感で、話をしても良い傾向にあり、若い女性も教育、育児にも熱心な人が多い。好況への舵取り次第で、解放されれば出産率も増加して楽になり、安住した消費生活を望んでいるようです。
	商店街代表者	10%付きプレミアム商品券を昨年12月から3回に分けて販売、2億5千万円は2月上旬に完売となった。地域内で消費されるだけに、経済効果が期待できる。
	スーパー	防災意識が高く、食料品の備蓄傾向を感じます。
	スーパー	高校を卒業しても、仕事につけない人がいる。一度に買い物をすませ、無駄なガソリンを使わないようにしている。
	コンビニエンスストア	価格と価値が両方とも認められなければ、お客様に買って頂けない事が多くなっています。半額に値引き販売しても、価値がないと全く販売にはつながりません。物余りの傾向が強いと感じます。
	家電販売店	購入に慎重な方が増え、本当に必要な物のみ購入する状況です。必要最低限の機能だけを求める方が多くなった為、付加価値の高い商品が売れない状況です。
	自動車販売店	業者間で震災の影響を受けたところと無かったところでは、ここ何年間で業績の開きが相当分出ると思われる。
	農産物直売所	少しずつではあるが、県外のお客様が増えてきました。暖かくなるにつれて期待したいと思います。
	小売業（酒類）	マスコミの報道によるものなのか、防災関連用品（ハンドライト、水、電池、手動式ラジオ）などが売れている様です。（食品においても賞味期限が長期保存できる物です）
	衣料品販売店	以前よりチラシ（広告）を見てから来店されるお客様が増えた。少しでも欲しいものを安くと思われるお客様が増えたように思う。しかし、広告を見てくださるお客様が増えたので、来店客数も伸びている。
	洋食食堂	工事関係のお客様の来店がランチ時に集中している。反対に、夜のお客様の来店数が少ない。
	割烹料理店	震災から1年が過ぎようとしている。いまだに道路などはこぼこのままだが、少しずつ補修されてきて、そういった業種の方は忙しく、景気もよくなってきているようだ。
	日本料理店	年度末ということもあり、一部では忙しく動いているようです。震災から一年が過ぎたこともあり、他県からの観光客が少しずつ戻りつつあるようです。
	ドライブイン	厳しい寒さで冬野菜の品薄が続いており、今後の影響が心配される。
	理・美容店	低価格でも必要であれば買わないという感じがしてきます。
	クリーニング店	今年、煙草農家を止めた人は、国から補助金が出たので、ずいぶん助かっている。次の作物を作る機械や資材に投資できると喜んでいて。外国人を使っている農家も、昨年より売上げが落ちていて東電から補償金が出たそうです。後継者もできて、一生懸命仕事をやるようになったと喜んでいて。
	室内装飾業	スーパーなどに買い物に行くと、以前は特売日になると特に人が大勢来店していたが、ここ最近では特売日にも関わらず人が減ったような気がする。但し、鹿嶋市内のスーパーなどは朝から人混みでいっぱいでした。また、朝から来店する人は大半がお年寄りでした。
住宅販売会社	分譲地が動き出したので、来年度後半以降は回復の兆しが見えるかもしれない。	
住宅販売会社	震災の復興需要で、内装業者、設備業者、土木会社などは、一時的に景気が良いとの話は耳にする。	
企業	農業関係者	2次加工品の売れ行きが非常に順調である（焼酎、ようかん、ジュース）。トマトの需要が急激に伸びている。マスコミの影響らしい。
	製造業（食料品）	人の動き、金の動きが悪い。新商品を開発しても、すぐには動かない。
	製造業（食料品）	近くのコンビニートなどは、震災の影響もあって定期修理を早めに始める様で、工事関係の車も増えている様と感じます。売上に通じればと期待をします。
	製造業（化学工業）	早期の震災復興需要に期待する声が多かったが、最近では話題に上らない。
	建設業	飲食関係、特に海産物の店が客が少ない。海のレジャー、サーファーの人達も少ないです。レストラン、食堂、コンビニも少ない。特に、他県からの客が少ないです。
	運輸業（道路貨物運送業）	水戸の借楽園の”梅まつり”の時期であるが、天候が悪い日が続く心配である。昨年は東日本大震災で途中で中止となったので、今年はたくさん観光客でにぎわって欲しい。
	金融業	企業間の競争激しく、特に生産性の低い中小企業においては、依然厳しい状況にあると思われる。
	保険業	運送業では、軽油が高止まりしていて経営が厳しくなっている所が見られる。
	サービス業	高速道路利用者、車両の減少が見られる。
雇用	人材派遣業	特に大きな変化はないものの、3月末決算でどの企業も対前年比でマイナスの様で、震災の影響が大きい。

(4) 県南地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	今後も電力供給見通しが厳しい中、企業の国内生産から海外生産へと移行が進むようなら、下請企業をはじめ、雇用にも厳しさが増し、景気の回復にも悪影響が心配される。
	スーパー	防災関連商品をコーナーで展開しています。やはり9月の防災の日より、販売数は非常に多いと思う。
	スーパー	放射能の影響を気づかうお客様より、遠方野菜や遠方玉子等、価格は高くなってしまいが、喜んで頂いている。
	コンビニエンスストア	正社員を探している若者が多いですが、多くの企業はパートやアルバイトの募集ばかりである。仕事が無くなってきているように思います。
	農産物直売所	今年1月、2月は例年にならぬ寒波により、野菜（特に葉物）の育ちが悪く、出荷者も少なく、お客様に満足いく供給ができなかったため、売り上げも前年対比ダウンです。
	専門スーパー	節電からの店舗照明の間引きも少なくなり、また放射能に対しての間合せも減ってきていて、以前の生活に戻りつつある。
	ガソリンスタンド	震災以降、1回あたりの給油数量が減少しています。まさかの時のためにタンクが半分程度になったら、満タンにしておくという意識が一般消費者の間で浸透しているのではないかと考えられます。
	和食食堂	テレビでほんの少しずつ復興しているのを見て、少しずつでも日本が元気になればと思います。そして景気が良くなれば幸いです。
	洋食食堂	ネットに書き込んでくださる方がいます。ありがたいですね。宣伝費を出せば上位に案内されるようですね。個人の小さい店は、宣伝費用をかけてもかえって仕事が、又、経営を悪くしてしまうのではと思います。このままやっていくのがより良いのでは。
	都市型ホテル	原発による外国人客の減少、茨城県（日本開催）での学会開催見送りなど、今後さらに厳しい状況が感じられる。ここ茨城も相変わらず余震があり、観光客等のダウンも隠せない。しばらくの間厳しい状況と思われる。
	旅行代理店	バスの運行に関していえば、燃料が週ごとに値上がりしていることから利益の減少に繋がる。
	タクシー運転手	昨年の震災以来、世の中自粛ムードなので財布のヒモが固まっているようです。夜の飲み会の回数を減らしたり、以前はタクシーで東京方面へ帰られた方もビジネスホテルに泊まり、翌朝電車で帰るみたいです。電気料金等が値上げになると、より一層シビアになるとと思います。
	代行運転手	サラリーマンの給料が増えていない（公務員も）。飲食店がつぶれて来ている。
	ゴルフ場	予約ペースでは比較的順調だが、天候などの要因で（予報の悪い時）売上面で大きな変動がある。
	ゴルフ場	昨年は大震災で大きく底へ落とされたが、少しずつ元気を取り戻しつつある。現在に経済の暗い話題が多すぎる。
	パチンコ店	守谷駅周辺の空地に建物が建ったり、テナント、大きなマンション工事がはじまり、これからは少しずつ良くなる気がします。
	レジャー施設	震災復興事業に携わるお客様が土日を中心に来場している。この様なお客様を中心に購買意欲は維持されているが、これがいつまで続くかは不透明である。
理・美容店	東電の電気料アップや消費税の増税で、景気が上がるとは思えない。	
建築設計事務所	元請の仕事は少ないが、下請けにいたっては、標準報酬の50%になっている。	
企業	製造業（家具・装備品）	やはり震災特需と思いますが、建築、リフォーム関係は忙しいようです。
	製造業（食料品）	茨城県内での売上は大幅良くなってきているのですが、他の地域の人からの注文は回復していません。
	製造業（食料品）	今までに経験した事のない不景気だと思います。過去10年遡って調べたところ、2月は最低の売上でした。友人達は、先行きが不安でお金が使えないとっております。
	製造業（窯業・土石製品）	去年の12月に東北地区の3工場で聞いた話によると、工事の不調がずいぶん増えてきているとのことであつたが、最近現実的になってきており、人件費の高騰、建設機械のリース料が高騰している。関東地区でもリースを返却すると直ぐに借りられないので、長期間リースすることが増えてきている。
	製造業（窯業・土石製品）	投資顧問会社の年金資産の虚偽報告や恒常的な円高により、しばらく安定はしないのではないかと。
	製造業（非鉄金属）	電気料金の値上げについて、激変緩和措置が必要。すでに4月以降その他の仕入れ分の値上げ要請もきており、関西系企業とのコスト競争にますます開きが生じることになる。すでに大手自動車メーカーでは転注の動きが一部製品に見られる。
	建設業	先日、各事業所巡りを実施して、各事業所の経営者と懇談しました。いずれの地域でも震災の影響はありましたが、民間工事の依頼分は殆ど昨年の10月頃に完了している様子でした。大規模修繕工事の末、着工部分が依頼主の資金不足で放置のままという仕事も見受けられました。中小業者の受注は、15%は少々、30~40%減少は半数以上に昇り、本当の危機を感じます。茨城県内の業者も20~30%減は多いと感じます。
	建設業	東北地方と違って、この辺は震災の影響は大したことではないが、まだまだ道路や建物等の修繕が終っていない。しかし、住民達はそれほど苦にしていないようだ。土ぼこりが立つのも慣れてきてしまっているのだろうか。
	建設業	新店の話が増えた。場所は安いテナントを借り、投資コストは少なく、人手もかけない事業（小店舗）が身の回りでは多い。

	金融業	税金の未納による調査依頼が依然として多い状況である。
	不動産業	商圏内の不動産業の業態として何を求めているのかを分析し研究し、対応できる総合的な会社が残れると思う。総業42年12店舗120名体制の中で総合的な提案会社として支持を受けられれば、何業に於いても必ず成長すると思う。長い間育ててきた地域密着の考え方で地域を大切に王道であれば良いと思う。職業人（プロ）の出番だと思う。
雇用	学校就職関係者	自動車業界は去年、過去最高益になると言っていた。震災により潤っている企業もあるが、乳業関係や農業は被災による工場の停止や風評被害でどうにもならないと話していた。全体的にはマイナスに見える。
	求人開拓員	直接雇用が増えつつあり、就職スキルアップ等のセミナー参加者の減少が見込まれる。

(5) 県西地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	お客様の買入が更に細かくなっている。
	商店街代表者	①海老名の新しいサービスエリアに行った時思った。日本はどこが不景気なのだろう。②ちょっとハイクラスのホテルに宿泊した時思った。日本はどこが不景気なのだろう。消費者は、日常と非日常を分けて生活しているのかな。
	時計販売店	メガネの単価下落が続いている。
	スーパー	お客様の購買行動で、無駄な商品をお買上げにならないのは変わらないが、価格から価値に少しシフトしてきた様に感じます。良質な商品の動きが以前よりやや良くなってきている。
	コンビニエンスストア	以前からお客様の利用の多いお弁当やおにぎりに加えて、最近は野菜などの利用も多くなってきています。小売店の数が減少する中で、近場で買い物を買いたいというニーズが増えている様に感じます。
	衣料品販売店	去年は震災で不安定でしたが、平素をとり戻しつつある様に感じます。
	家電販売店	震災後、エコに対する消費者の意識の高まりから、LED電球・LED照明などが売れている。更に、暖房効率アップの為に、エコ内窓や太陽光の問い合わせが多く、実績も上がっている。
	自動車販売店	生活に必要な身の回りに関する店は、お客様が入っているようです。高額商品は節約していると自動車を通じて感じております。若い人が集まる店は、内容は分かりませんが景気がよさそうに見えます。
	農産物直売所	野菜、果実等が高騰しているため、直売所などは来店数が増えている。
	ガソリンスタンド	給油の気軽さから、価格の安いセルフスタンドにお客様が移行しているようだ。
	和食食堂	去年の3月11日から続いていた消費自粛ムードは、相当小さくなっている様に感じます。(未だ不自由な生活を強いられている多くの被災者の皆様には心苦しく感じます。)
	鰻屋	うなぎの高騰が続き、先が見えない事が不安である。
	都市型ホテル	お客様の単価の安いお店が動いていると思われまます。低価格志向で、無駄なお金は使わないようにしていると思われまます。
	旅行代理店	常総市内の旅行業が閉店してしまった。コンサート入場券はじめ、旅行手配などがコンビニでできるようになったからでしょう。観光バス業は、各自自治体の白バスをなくして、営業者に回すことをお願いしたい。各自自治体の市バスは、早急に民間に任せるべきでしょう。
	ビジネスホテル	あまりよい事ではない残念な事だが、古くから営業してきた30~40室規模のビジネスホテルが廃業した事により、稼働率のプラス要因となった。
	タクシー運転手	私は夜間に重きをおいて業務してますが、小料理や一杯飲み屋さんとは団塊世代が多方利用し、若い女の子がいる店は若い人が多数と、二極化してるかなと感じる時があります。フィリピンバブも結構有り、どこのお店も元気な日ほどの店も賑やかで、我々も非常に助かります。昔ながらの 대중キャバレーみたいな感じで、いい感じですよ。
	タクシー運転手	ショッピングモールも土・日は人は多いが、実際に買っている人は少ない様に思う。
	ドライブイン	最近になり、観光バスが去年より増えて来た様に思う。
	ドライブイン	ガソリン価格、電気料の値上げ等、景気に悪影響を与えかねない要因があり、財布の紐は堅くなっているような気がする。
	日本料理店	飲食業全体として、比較的昼は好調だが、利益率が高い夜が低迷しているのを感じる。
理・美容店	光熱費の増加は家計にひびくという主婦はかなりのいる。	
理・美容店	お客様との会話で出てくるのは、節約とか現状維持という話が多い。景気回復はまだまだだと思ふ。	
住宅販売会社	来年度の景気浮揚に期待する声大きい。	
企業	農業関係者	このところの寒気で野菜、果実の収穫が少なく、高値で売れている。昨年より80%~90%の販売高となっている。
	農業関係者	現在、JAでは所得税、消費税申告時期を迎えた生産農家の税務申告のお手伝いをしております。原発風評被害の補償金が年内(H23)に入金され、各生産農家は一息つきそうです。
	製造業(食料品)	昨年閉店した100円均一のお店が変わってドラッグストアが開店することになってよかった。空き家ばかりでは心も冷えてしまう。
	製造業(食料品)	東京電力から電力料金の値上の通知が周りにも当社にも届いて、昨年夏以上の節電をどうやったら達成できるのか、各社苦慮している。中小企業には、かなりの負担になるので、この先の景気の不安材料になるのではと懸念している。
	製造業(印刷・同関連業)	リタイアした人達が散歩してたり、市外から街歩きにくる高齢者の方々が目につく。しかし、散財はしないようだ。「団塊」の世代の人達が第二の人生を楽しんでいるのは結構なことだ。2015年位までは、人生を楽しむ方々が世に出るらしいが、その後の世代の方にとっては、厳しい時代になるようだ。
	製造業(窯業・土石製品)	私が行くお店は、10店余りあるのですが、昨年暮れから3月にかけて、5店が閉めました。理由を尋ねると、「景気がよくない」「お客さんが来ないから」と言っていました。しかし、私が常時行っている店は、金額が高いにもかかわらずお客さんが入ります。理由は、見ていると、お客さんをただただ大切に扱っています。これが繁盛する基です。本当に勉強になります。

企業	金融業	震災による道路の補修工事や主要道路（常総バイパス 294号線）の拡張工事が見られる。
	不動産業	生活保護者が相変わらず多い。景気は多少良くなっていると思うものの、低所得者などは依然厳しい。格差は広がっている。
	サービス業（コンサルタント業）	私たちの地域は大手自動車会社の工場進出に伴い、工場用地周辺及び最寄り駅からのアクセス、道路の整備等々の土木工事が盛んに行われていますが、地元企業の活性化に繋がっているかどうかは疑問です。しかしこのような環境下で少しは賑わいを感じることができていますが、景気となると余り期待はできないのではないかと思います。
雇用	人材派遣業	今までよりも、少し日本が元気になってきたような気がします。
	学校就職関係者	小麦粉、バター等の食料品の価格がじわじわと値上がりしている。
	就職相談員	相変わらず、求人側と求職者で希望職種の不マッチが続いている。古河市への大手企業の進出に伴い、関連企業の進出が古河・結城地域に見込まれているので、地域の雇用拡大と景気向上を期待したい。